272.5
3

始

工場教育教授細目

埼玉工業懇話會

272.5-3

緒言

尋常小學校の教科を終了せずして、工場に職工として雇傭せらるゝ兒童に對しては、工場法施行令に依り、工業主に於て教育に關する方法を定め、地方長官の認可を得て相當教育を受けしむることに定められたり。而して大正八年十二月末現在本縣工場法適用工場四百五十二中、前記の教育施設を爲すもの百十三工場、兒童約一千人を算す。

工場に於ける教育は普通小學校に比し毎週の教授時數甚だ少く、從つて各科教授時間の配當、教材の選擇等教授擔當者の若心尠からざるものあるを察し、その參考に供せんが爲め本會は本縣教育會に囑して茲に本教授細目を編纂せり。然れども素と之れ一の基準を示したるに過ぎざるを以て、教授擔當者は宜しく其の運用に力め教授の實績を擧ぐるに於て遺憾なからんことを望む。

終に本細目編纂に當られたる本縣教育會諸君に對して其の勞を謝す。

大正九年七月

埼玉工業懇話會

大正22
内交

細目編制に就て

一、本細目は毎週教授時數十二時間、毎日二時間宛として編制し、休業は日曜、祝祭日其の他本縣小學校の休業日とせり。

一、工場教育に於ては數箇學年の複式教授を行ふもの多かるべし。本細目は單式的に編成せるを以て便宜按排して使用せらるべし。

一、現行制度に於て工場に雇ひ得る兒童の最低年齡は滿十歳なるを以て從つて尋常科第二學年修了者と認め第三學年以後の分より編制せり。

一、各教科毎週教授時數の配當左の如し。

教科目 ＼ 學年	尋常科第三學年	同第四學年	同第五學年	同第六學年
修身科	一時	一時	一時	一時
國語科 讀方	四	四	四	四
國語科 綴方書方	男二 女一	二	二	二
算術科	男 球算 一四	球算 一四	球算 一四	球算 一四

裁縫科　女　二　二　二　二

計　男　一二　一二　一二　一二
　　女　一二　一二　一二　一二

備考

一、國語科　綴方書方は細目中には男女共各合併して一時間として編制しあれども男子は特に二時間とし綴方書方各一時を配當するを便とす。

二、算術科　男子には特に球算を一時間づゝ課すべし。球算教材は細目中に掲記せざるを以て適宜兒童の程度に鑑み加減を主とし五六學年に至つて簡易なる乘除を加ふ。三學年は球算を省きて毎週一時の筆算復習を加ふるも可なり。

三、毎週時數　最底時數の十二時間に據れりと雖も夫れ以上の時數を有する場合に於ては便宜本細目の運用を工夫するを要す。

一、教科書は目下改正の過程に在るを以て本細目は左表の如く新舊を混用せり。

教科目 ＼ 學年	尋常科 第三學年	同 第四學年	同 第五學年	同 第六學年
修身科	新	舊	舊	舊
國語科（讀本）	舊	舊	舊	舊
算術科	新	舊	舊	舊

修身科細目

修身科細目使用上の注意

一、別に地理歴史理科を授けざるを以て本科教材中それ等に關係あるものはろの心して授くべし。
一、實踐の指導については一々を記載せず故に教授者は兒童の實狀に鑑み適宜遺漏なきを期すべし。
一、兒童は何れも工場の幼工なればその境遇に適する樣教授細目の運用を圖るべし。

尋常科第三學年

第一學期

豫定教授時數凡十七時

週	教授事項	備考
一	第一　皇后陛下（凡一時間） 一、皇后陛下の幼時より質素仁慈にわたらせられしこと 二、皇太子妃殿下になられてより御親ら養蠶をなされ又日露の役には繃帶を作りて軍人に賜はりしこと 三、皇后に立たせ給ひて後も教育、産業に心を用ひ給ひ貧民を憐ませ給ふ等有難き多くの事實の存すること	最敬禮 行幸啓を拜する時の心得 皇室に關する談話には必ず敬語を用ふべきこと
二	第二　忠君愛國（凡二時間） 一、谷村計介の忠君愛國	
三	二、復習	

三、現在並將來に於て吾人のとるべき忠君愛國の道

四　第三　孝行　（凡二時間）

一、二宮金次郎よく幼時より父母の手傳をなす
二、母を助け弟をいたはりよく母を安んず

五　三、復習
四、孝を盡すの道
五、格言　孝ハ德ノハジメ

六　第四　しごとにはげめ　（凡一時間）

一、金次郎年十二にして大人と共に川普請に從ふ
二、仕事の出來ざるを憂へ深夜に至るまで草鞋を作り人に與へてその償となす

七　第五　がくもん　（凡二時間）

一、金次郎のよく刻苦勉强せること
二、復習
三、常に寸陰を惜みて勉强すべきこと

八　九　第六　せいとん　（凡二時間）

一、本居宣長の深く整頓に心を用ひしこと
二、復習
三、居室作業場の整頓につきて

一〇　第七　正直　（凡二時間）

一、正直なる丁稚一度不正なる主人に解雇されしが次の主人の下に

他郷にありては時折書信を通ずべきこと

ありても正直にし遂に立身出世せしに反し不正の主家は衰へしこと

一一　二、何事にも正直に殊にかげひなたなかるべきこと

一二　第八　師をうやまへ　（凡一時間）

一三　一、上杉鷹山の細井平洲先生を尊敬したること
二、師といふは單に學校に於ける教師のみを指すにあらず工場に於ける技藝の師も亦然り故に尊敬の道を誤るべからず

一四　第九　友だち　（凡二時間）

一、友藏と信吉との仲のよかりしこと
二、他郷にありては殊によき友を得親しく交ることの必要なること
三、友だちと交るの道

一五　一六　第一〇　規則に從へ　（凡二時間）

一、春日局の略歷及將軍家光の乳母となりし次第
二、將軍に仕へて頗る忠實なりしこと
三、或夜平河に御番所通行の時よく規律を嚴守せしこと

一七　四、總べて規則には從ふべきこと　その實踐指導

工場内の規則に從ふべきこと
船車内に於てはその規則並に係員の指示に從ふべきこと
道路の左側通り　その他警察犯處罰令に擧げたる主なる事項の注意

第二學期

豫定教授時數凡十六時

一　第十一　行儀　（凡一時間）

一、松平好房の人と爲り

室内歩行の作法
衣服類の着用に關すること
座禮の種々

二、父母に仕へて至孝
三、行儀の必要なること
四、平生の習慣が最も大切なること

人の前を過ぐる時の注意
戸障子の開閉

二　第十二　勇氣　（凡一時間）

一、木村重成の略歴及大阪の役に於げる殊勳
二、重成の家康の陣に至りて誓書を取りかぬせし時のこと
三、眞の勇氣と粗暴

三　第十三　堪忍　（凡二時間）

一、重成の堪忍
二、常に堪忍の德を養ふ樣心掛くべきこと
1. つまらぬことに爭はぬこと
2. 喧嘩をしかけられても猥に手向ひせぬこと
3. 弱い者いぢめをせぬこと等注意すべし
三、格言　ならぬ堪忍するが堪忍

下品なる言葉を避くべきこと
他人の談話に差出口をすべからず
他人の惡感を起す樣な言動あるべからず

四　第十四　物事にあはてるな　（凡一時間）

一、毛利元就夫人の貞烈
二、夫人の沈着
三、何事にも猥りにあはて騒ぐことあるべからざること
四、工場に於ける非常時の注意をなし置くべし

工場の内外を清潔にし國旗を掲ぐること

六　第十五　くわうたいじんぐう　（凡一時間）

一、皇太神宮の尊き御宮なること

二、皇太神をうやまふべきこと
三、皇室及國民の敬ひ尊びつゝある事實

及び國旗を鄭重にすべきこと
最敬禮、勅語奉讀の際の態度その他式場に於ける注意

七　第十五　祝日　（凡一時間）

一、祝日の意義と當日に於ける宮中の御儀式の模樣
二、十分の祝意を表し兩陛下の御恵深きことを思ふべし

八　第十七　儉約　（凡二時間）

一、光圀の儉約
1. 節儉を以て最近の德となす
2. 公の日常生活
3. 紙の濫費を戒め女中に紙すき場を見せしこと
二、日常生活上能ふ限り儉約を守るべし　實踐上の心得指導
三、儉約と吝嗇との別

九　第十八　慈善　（凡二時間）

一、鈴木今右衛門の救恤並にその妻の慈善
二、令娘の慈愛
三、常に節儉を守りて慈善を行はんことを心掛くべし
四、慈善は身分に應じて施すべきこと、不具癈疾者をいたはるべきこと等を授く

主人の物にても自分の物と同樣決して疎末にすまじきこと

一〇　第十九　恩を忘れるな　（凡二時間）

一、永田佐吉が堅く主人の恩を心に銘しよくうの報恩に力めしこと
二、恩を受けては必ず報いんと心がけざるべからず

	三、今までに人より受けし恩の廣大なることを思はしめよ		
一五	第二十　くわんだい　（凡一時間）		
	一、益軒の寛大		
	二、過と知らば責むべからず		
一六	年末年始に際しての心得を授く		

第三學期

一一	第二十一　健　康　（凡二時間）		
	一、益軒の幼時の体質と養生に注意せしこと		
	二、益軒の健康と長壽		
	三、身体の健康の大切なること		
二	四、保健上の注意一般		起床後直に口を嗽ぎ手を洗ひ顔を洗ふこと 頭髮顔面手足を清潔にすること 鼻に唾吐をはくべからず 食事前に手を洗ひ食事後に口を嗽ぐこと
	五、格言　藥より養生		
三	第二十二　自分の物と人の物　（凡二時間）		
	一、河原市の馬子飛脚に金子を返せしこと		
	二、飛脚馬子に謝禮を贈らんとせしも受けざりしこと		
五	三、自分のものと他人の物との區別を明にすべきこと		
	四、物品貸借上の心得並に遺失品に關する注意		物品貸借の心得及返す時の作法
六	第二十三　共　同　（凡一時間）		
	一、毛利元就その三子に共同して毛利家を守るべきことを教へ子等		

よくうの教を守りてその繁榮を致す

	二、共同の必要なること		
七	第二十四　近所の人　（凡一時間）		
	一、佐太郎が近所の人に對して親切を盡せしこと		
	二、近所の人に對する道		
八	第二十五　こうえき　（凡一時間）		
	一、佐太郎石橋を作りて衆人の便をはかる		
	二、兒童になし得る公益の數々を擧げて實行を指導す		
九	第二十六　生き物をあはれめ　（凡一時間）		
	一、木曾の孫兵衛が馬を愛したること		
	二、一般に生き物を愛すべきこと		
一〇	第二十七　よい日本人　（凡二時間）		
一一	同		
	教科書の要領によりよき日本人の具備すべき資質を明にす		

尋常科第四學年

週一

第一學期

豫定教授時間數〇十七時間

教授事項	備考

一　第一　明治天皇　（凡二時間）

一、明治十一年東北御巡幸の際の御仁慈
二、同　二十三年大演習の際の御事
三、明治二十七八年戰役の際廣島大本營内に於ける御有樣
四、その他明治天皇の御仁慈
五、御聖德に報い奉る道

二　第二　能久親王

一、臺灣征伐の際の御勵精
二、義勇奉公の道

三　第三　忠君愛國

一、谷村計介の人となり、選ばれて大任を引受け千辛萬苦の末大任を果したること

四　第四　靖國神社

一、靖國神社の由來
二、皇室並に國民の尊崇
三、益々義勇奉公の心を厚うすべきこと

五　第五　志を立てよ

一、秀吉の家系及幼時の境遇
二、秀吉の立志
三、松下嘉兵衛に仕へての忠實
四、信長に仕へての忠勤

最敬禮及行幸啓の際の禮法

皇室に關する談話に敬語を附すべきこと

神社參拜の作法

六　第六　職務に勉勵せよ　（凡二時間）

一、信長に仕へての勵精
二、清洲城普請の成功
三、次第に重任せらる
四、凡て人はその職務に忠實なるべきこと
五、實踐指導

七　第七　皇室を尊べ　（凡二時間）

一、秀吉光秀を滅して主君の仇を報ず
二、天下を平定して位人臣を極む
三、仙洞御所の修築
四、聚樂第に行幸を請ひしこと
五、朝鮮征伐と秀吉の薨去
六、豐國神社のこと
七、秀吉の立身出世したる所以

八　第八　孝行　（凡二時間）

一、おふさの境遇とその孝養
二、他家に奉公せし頃の孝養
三、父の死後母に對する孝養
四、格言　孝は親を安んずるより大なるはなし
五、親の心を安んぜしひるの道

九　第九　兄弟　（凡二時間）

常に家鄕への通信を怠るなかれ
又時々珍しきものなど送るは親を慰むるの道なり

一、備前の兄弟田地を爭つて訴へ出づ
二、泉八右衛門の智畧と兄弟の悔悟

一四　三、格言　兄弟は両手の如し
四、兄弟は仲よく相助くべきこと

一五　第十　召　使　（凡二時間）
一、お綱身を以て主家の小兒を救ひしこと
二、お綱の失命とその石碑

一六　三、召使たるもの心得
四、主人の召使に對する道

一七　第十一　身　体　（凡一時間）
一、伴信友の養生と健康
二、身体を健康ならしむる方法
實踐の指導

第二學期

豫定教授時間數凡十六時間

一　第十二　自立自營　（凡二時間）
一、高田善右衛門の立志と獨營事業
二、行商の困難
三、誠實勤勉數年にして多くの利益を得たること
四、自立自營の大切なること

二　本課は男工の場合に於て特に力説するを要す

五、現在の生活と自立自營

三　第十三　自立自營　（凡二時間）
一、善右衛門その後の奮勵
二、善右衛門と天秤棒

四　三、自分のことは自分でなすの習慣を養ふべきこと
四、誠實勤勉儉約の實踐指導

五　第十四　志を堅くせよ　（凡二時間）
一、ジェンナーの種痘法完成に至る迄の堅忍持久
二、立志と堅忍持久の必要

六　第十五　知識をひろめよ　（凡二時間）
一、義家の兵法を學びしこと
二、知識を廣むることの必要なること

七　三、格言　玉磨かざれば光なく人學ばざれば知なし
四、寸陰を惜みて勉强すべきこと

八　第十六　迷信を避けよ　（凡二時間）
一、眼病の婦人迷信の爲療治手おくれとなりしこと
二、迷信を避くべきこと

九　三、兒童の有する多くの迷信に對する注意

一〇　第十七　克　己　（凡二時間）
一、御光明天皇の御賢德
二、天皇雷鳴を恐れ給ふ性質を矯め給ひしこと

一一　神佛參拜の心得

一二　三、克己の大切なること
　　四、克己修養の方法

一三　第十八　禮儀　（凡二時間）
　　一、禮儀を守ることの必要
　　二、人に對する時の心得
　　三、人に手紙を送る時及受けたる時の心得
　　四、人の秘密に對する心得

一四　五、心と形
　　六、形の變る場合
　　七、親しさに狎れて禮を失せぬ樣すること
　　八、格言に親しき仲にも禮儀あり

一五　第十九　生き物をあはれめ　（凡一時間）
　　一、ナイチンゲールの傷きたる犬を救ひしこと
一六　二、生物を憐むべきこと

言葉遣
年賀の挨拶
物品の授受進撤

第三學期

豫定教授時間數凡十一時間

一　第二十　博愛　（凡二時間）
　　一、ナイチンゲールの博愛
二　二、赤十字社の創設
　　三、赤十字社の事業　日本赤十字社の効績

三　第二十一　國旗
　　一、國旗の性質と我が國旗
　　二、國旗を立つべき場合
　　三、國旗に對する心得

四　第二十三　法令を重んせよ　（凡二時間）
　　一、松本定信の畧傳
　　二、京都假御所參内の節根府川の關通過の折よく〜法令を重んせしこと
五　三、法令を重んずべきこと
　　四、工場の規則規律の遵守

六　第二十四　公益　（凡二時間）
　　一、栗田定之丞の公益
　　二、栗田神社
七　三、今より衆人の利害を考へ公衆の利益となる樣行動すべきこと
八　第二十五　人の名譽を重んずべきこと
　　一、伊藤東涯と荻生徂徠との間の話
　　二、自他の名譽の尊重

九　第二十六　人は萬物の長　（凡二時間）
　　一、言動の自由
　　二、知能の勝れたること
　　三、良心を有すること

國旗の取扱及之を亂用すべからざること
外國旗と交叉する場合用意を表する場合

立入禁止の地田畑等に亂入すべからず
道路の右側通行
道路にありて交通の妨害をなさぬこと
船車に關する心得

工場内の團体にもこの心得大切なり

一〇　四、有意的に社會に貢献す
　　五、人は萬物の長たる所以を發揮すべし
一一　　第二十七　よい日本人
今學年間教授したる事項を總括し修德の理想を示す

尋常科第五學年

第一學期

豫定教授時間數凡十七時間

週	教授事項	備考
一	第一課　大日本帝國　（凡三時間） 一、天照太神 二、皇孫降國の始末 三、神武の大業	
二	四、萬世系の皇統 五、歷代天皇の御仁慈	
三	六、我等祖先の忠君愛國 七、我等の覺悟	
四	八、勅語第一段の趣旨を明にす 第二課　皇太后陛下	

一、皇太后陛下の御仁德
　1. 教育に御用を用ひ給ひしこと
　2. 產業御奬勵
　3. 博愛事業
　4. 明治二十七八年及三十七八年戰役の際の御事
五　第三課　忠君愛國（その一）（凡二時間）
　一、元の來襲
　二、河野通有の奮戰
六　第四課　忠君愛國（その二）（凡二時間）
　一、正威の誠忠
七　二、その他忠臣の奮起
八　三、有事と平時の忠君愛國に關する心得
九　第五課　仁と勇（凡二時間）
　一、加藤清正の仁と勇
一〇　二、眞勇と仁
一一　第六課　信義を重んせよ（凡二時間）
　一、加藤清正の信義を重んせしこと
　二、格言　見義不爲無勇也
一二　三、人と交つては信なかるべからざること
一三　第七課　誠實（凡二時間）
　一、清正の赤誠よく豊公を動す

男工の場合には特に粗暴を誡ましむべし

二、德川の世となりてもよく秀頼の安否を訪ふ
一四 三、京都に於て家康と秀頼との會見の際よく秀頼を護る
四、至誠の必要なること

一五 第八課　油斷するなかれ
一、清正の油斷なかりしこと
二、格言　油斷大敵

一六 第九課　志を堅くせよ　（凡二時間）
一七 一、鷹山の大志を立て堅忍持久よくその大成を致せること
二、困難に遭遇せる場合の心得
三、安逸に流れぬ心掛

工場の勞働に慣れたる者にて年々相當の負傷者を出す

第二學期

豫定教授時間數十六時間

一 第十課　儉約　（凡二時間）
一、上杉鷹山の儉約
二、平素心掛くべき各自の儉約
三、儉約と吝嗇との別

二 第十一課　產業を興せ　（凡二時間）
一、鷹山の殖產興業
二、富力と國家
三、各自の勞働生產と國富

宵越の錢を使はぬとは職工勞働者間の惡弊なり

四、質よき生產物を多量に出す樣勵精すべきこと

五 第十二課　孝行
一、鷹山の孝行
二、各自それにわやかるべき工夫

六 第十三課　兄弟
一、伊藤小左衛門兄弟の話
二、兄弟の相互扶助と依賴心とにつきて
三、友愛と孝行

七 第十四課　進取の氣象　（凡二時間）
一、小左衛門の進取
二、進取と改良進步
三、文明の進步と進取の氣象

八 第十五課　忍耐　（凡二時間）
九 一、コロンブスの新陸地發見と忍耐
二、忍耐の必要なること
三、日頃忍耐力を養ふべきこと

一〇 第十六課　禮儀　（凡一時間）
一、禮儀の必要
二、非禮なる客儀について
三、集會場所その他の場合に於ける禮儀
四、親しきに狃れて禮儀を忽にすべからず

職工個々の心掛に大切なる意義あるを自覺せしむ

轉々工場を變ずるの不利なるを覺らしむ

作法の練習に努めよ

五、吉凶事につきて慶弔する場合の禮

一二	第十七課　習慣	（凡二時間）	祝賀弔問に關する禮儀
	一、瀧鶴臺の妻の最良なる習慣養成の工夫		
	二、松平定信の儉約の習慣		
一三	三、格言　習性となる		
	四、善良なる習慣を養ひ邪惡なる習慣を打破する上の工夫		
一四	第十八課　勉學		
	一、新井白石の勉學		
	二、勉强の工夫　平生の心得		
一五	第二十課　主人と召使	（凡二時間）	
	一、中江藤樹と召使		
一六	二、工場の實狀に照して指導		

第三學期　豫定教授時數凡十一時間

一	第二十一課　德行	（凡二時間）	墓拜の心得
	一、中江藤樹の德行		
	1. 勉學、召使に對して、孝養等		
	二、その感化		
	1. 加賀の飛脚、歿後門人故舊の之に對する態度		
二	三、修德の必要		

四、平素の心掛

三	第二十二課　度量	（凡一時間）	
	一、藤原實方と行成とのこと		
	二、天皇の之に對させ給ふ御態度		
	三、兒童の度量		
	四、度量を大にすべきこと		
四	第二十三課　謝恩	（凡二時間）	
	一、秀吉夫婦の謝恩		
五	二、吾人の受けたる恩の總てと之に對する謝恩		告送別送迎の作法
六	第二十四課　廉潔	（凡一時間）	
	一、小島蕉園の廉潔		
	二、格言　不義の富は浮雲の如し		
七	第二十五課　博愛	（凡二時間）	
	一、虎吉の他國の人に世話になりしこと		通行人殊に外國人を○笑するが如きことあるべからず
八	二、博愛の必要		
	三、博愛の事業		
	四、外國人に對する心得		
九	第二十六課　生き物を憐め	（凡一時間）	
	一、孫兵衛夫婦の事		
	二、一般に生物を憐むべきこと		
一〇	第二十七課　女子の務		

一、三宅尚齋の妻よく夫人の道を盡す
二、女子の務の重大なること

一一　第二十八課　よき日本人

本學年間に授けたる事項を總括し兒童の向ふべき理想を明にす

尋常科第六學年

第一學期

豫定教授時數凡十七時間

週	教授事項	備考
一	第一課　皇太神宮 一、天照大御神 二、皇太神宮の尊嚴 三、皇室の尊崇 四、吾人臣民の心掛	
二	第二課　榮行く御代（凡二時間） 一、明治天皇の御即位と當時の國情 二、王政維新の御佛參	
三	三、五ヶ條の御誓文拜解 四、我國の今日の隆昌を致せる原因	

四　第三課　榮行く御代（凡二時間）
一、明治天皇御心を教育に用ひ給ふ
二、學制の頒布と文運の隆盛
三、軍事に大御心を注がせ給ふ

五　四、日清日露の兩戰役と國威の宣揚
五、我等の覺悟

六　第四課　榮行く御代（凡二時間）
一、皇室典範帝國憲法の御制定　帝國議會の御制定
二、條約の改定

七　三、帝國の版圖擴大
四、聖旨に生れたる吾人の幸福と本分

八　第五課　榮行く御代（凡二時間）
一、明治天皇の崩御と國民の哀痛
二、今上天皇踐祚とその御勅語

九　三、今上天皇の御仁慈
四、皇恩に報い奉らん爲の心掛

一〇　第六課　忠君愛國（凡二時間）
一、明治三十七八年戰役に於ける國民の奉公心の一班
二、陸海軍人武勇の實際
三、一般國民の後援　篤志看護婦等の勵精

一一　四、天皇の御製

五、義勇公に奉じの意義及吾人の覺悟

一二　第七課　忠孝　（凡二時間）

一、楠正行よく忠孝二道を全うす

一三　二、忠孝一致と我等の覺悟

三、格言　忠臣は孝子の門に出づ

四、克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲナセルの説明

一四　第八課　祖先と家　（凡二時間）

一、父母の保護とその恩惠

二、祖先の恩惠と之に對する我等の心得

三、家名の尊重

四、形名の妻

一五　五、家に對する吾等の心得

六、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ランの説明

一六　第九課　沈勇　（凡二時間）

一、佐久間艦長の沈勇

一七　二、格言　人事を盡して天命をまつ

三、實踐の指導

第二學期

豫定教授時數凡十六時間

一　第十課　膽力を養へ

一、富田屋嘉兵衛の膽力に富みし話

二　第十一課　膽力を養へ

一、富田屋嘉兵衛の事

三　第十二課　自立自營　（凡二時間）

一、フランクリンの自立自營

四　二、フランクリン、二宮金次郎、渡邊華山の比較

三、格言　天は自ら助くるものを助く

四、學を修め業を習ひの説明

五　第十三課　規律正しくあれ

一、フランクリンの規律的生活

二、規律ある生活をなす爲の日生の心得

六　第十四課　公益　（凡二時間）

一、フランクリンの公益

七　二、現在並に將來に於て公益を廣むる樣努力すへきこと

三、公益をひろめ世務を開きの説明

八　第十五課　獨を愼め

一、林子平の獨愼

二、修養上獨愼の必要

三、平生の心得

九　第十六課　産業に工夫をこらせ　（凡二時間）

一、井上でんの工夫

規律と工場の能率と大なる關係あることなども説くべし

一〇　二、進取の氣象　發明思想の喚起

一一　第十七課　慈　善

一、和氣廣忠の慈善

二、慈善實行の方法並に注意

一二　第十八課　勤　勉

一、伊能忠敬勤勉にしてよく一家を興す

二、格言　精神一到何事か成らざらん

一三　第十九課　勤　勉

一、忠敬よく天文測地の學を究め遂に全國の實測地圖を作る

一四　二、職務に勤勉すべきこと

三、日常生活上の注意

一五　第二十課　迷信を避けよ

一、忠敬迷信を排除す

一六　二、格言　知者は迷はず勇者は恐れず

三、ありふれたる迷信の打破

第三學期

豫定教授時間數凡十一時間

一　第二十一課　師を敬へ

一、忠敬の敬師

二　第二十二課　衛　生

一、私人としての衛生　その實踐的指導

二、公衆衛生　その實行指導

三　第二十三課　國民の公務　（凡二時間）

一、遵奉の義務

二、兵役の義務

三、納稅の義務

四　四、選擧に關する義務

五　第二十四課　男子の務と女子の務

一、父と母の務の異る點と各自の身の上の將來

二、男女の務の特點

三、各々その務を理解し尊重すること

四、各々その務を全うすることによりて國家の進運を見る

六　第二十五課　教　育

一、教育は國運發展の根原

二、學校教育の發達

三、教育と人格價値

四、義務教育と各自の覺悟

五、卒業後の修養

七　第二十六課　教育に關する勅語

一、第一段

1. 國体の精華

2. 教育の淵源

八　第二十七課　教育に關する勅語

一、第二段　略解

二、國民の心得にして臣民の日夕躬行實踐すべき事項

九　三、殊に忠孝の精神はその根本

四、この道を實行し　陛下の大御心に添ひ祖先の遺風を顯彰すべし

一〇　第二十八課　教育に關する勅語

一、第三段　略解

二、時間空間を超越する貴い道なること

一一　三、臣民一德を庶幾せさせ給ふものなること

四、終生勅語を奉体し寸時も忘るゝことあるべからず

國語科教授細目

國語科教授細目使用上の注意

一、本書は記載形式を次の如く定めたり。

第何學期豫定教授時數 ┌讀み方 凡何時
└綴り方 凡何時
　　書き方 凡何時

┌週┐教授事項（豫定時數）┌綴り方及び書き方┐

教授事項欄には、讀み方各課の內容上の要旨及び教授上の注意を記し、綴り方及び書き方は同一の欄內に收めたり。

一、讀み方●綴り方●書き方とも兒童の境遇に適する樣、教授細目の運用を計るべし。

一、讀み方

(1)教材に依り必要なる教具は、所在地の小學校につき借用するは便法ならん。

(2)別に地理●歷史●理科は特設して授げざること故、本課教材中それ等に關係あるものを授くる際には內容教授に力を用ひ、遺漏なきを期すべし。

(3)第五、第六學年にては教授豫定時數と兒童の實狀に鑑み、教材を數課宛削除せり。されど適宜教授せらるゝも妨げなし。

(4)書取練習は每課一々記載せざれども、充分機會を捕へて練習せしむるを要す。

附　記

世俗慣用の漢字にて慣用既に久しきものは、その正体を授くると共に略体をも授くべし。

一、綴り方

(1)大要隨意選題主義によつたるも、自然兒象及び地方の年中行事等にて適材を得る每に課題せられたし。

(2)隨時所在地小學校につき範文を得て、活用すべし。

一、書き方

(1)第三、第四學年には鉛筆の細字練習と毛筆の大字練習とを配せり。

(2)第五、第六學年には毛筆の大字と細字とを配せり。

尋常科第三學年

第一學期

豫定教授時數 讀み方 凡六十八時 綴り方 凡十時 書き方 凡七時

週	教授事項（豫定時數）	綴り方及書き方
一	卷五 第一 あまのいはと（凡三時） 天の岩戸の神話 （注意） 一、神話の價値を發揮し、古代に對する趣味の養成に力め、兒童をして事實上の疑問をさしはさましめざる樣にすべし。 一、內容は敷衍しやるべし。 一、天照大神の御德の高いことに注意せしむると共に、素盞嗚尊を普通の惡人といふ樣に思はしめざることに注意すべし。	綴り方 小學校につきて、自己を綴れる兒童の成績數葉を得之れに就きて綴り方とは自己を綴るべき事を知らしむべし。成績は謄寫して與ふ。
二	第二 春が來た（凡二時） 春の來たりし喜び （注意）	綴り方 前週に同じ

週	教授事項（豫定時數）	綴り方及書き方
三	第三 神武天皇（凡四時） 神武天皇の御偉績 （注意） 一、此の詩の作者の境遇を想像せしむることに力むべし。 一、春が來た〳〵、花が咲く〳〵の反覆法、來た〳〵、咲く〳〵の同韻に限りなき面白味あるなればうの心して味はしむべし。 一、御東征の御困難を忍ばしめ、國土平定の御偉業に感せしめざるべからず。	書き方 第一課の細字練習（鉛筆）
四	第四、五 水のたび（一）（二）（凡七時） 一、金鵄勳章の由來につきて附說するを要す。 一滴の水が溪流となり瀧となり川となりて海に注ぐ徑路 （注意） 一、此の課は雨の一滴を擬人視して之れに自分の事を叙せしめたるもの。話者の位置は「私はもと雨の一しづくです」。にて、海の中にあること明なり。 一、此の課にては瀧、川及び海の觀念を與ふること肝要なり。	綴り方 自由題にて綴らしむ。今年度は專ら精叙すべき事に努むべし。
五	第六 ナラノ大ブツ（凡三時） 日本の名物たる奈良の大佛の偉大なること （注意） 一、末節にいへる如く、挿繪によりて大佛と人とを比較せしめ、大佛の偉大なることをよく知らしむべし。	書き方 書き方手本上五、四頁

六　第七　コヒ

鯉の形態、生活狀態及び鯉幟の由來

（注意）

一、年長者が年少者に向つて話せる態度にて書き綴られたり。

一、「ウロコが三十六枚ヅツ」。とあれど必しも然らず。されどこは普通に從ひしなるべし。

（凡三時）

綴り方　四週の成績の批正

七　第八　母の手づたひ

おはなの從順

（注意）

一、母親の語とお花の語とに注意せしむべし。

一、つとめて此の美はしき家庭生活を想像せしむべし。

一、此の話は一段落にて一編をなせり。分節せずして取扱ひたし

（凡四時）

書き方　第八課の細字練習（鉛筆）

八　第九　かまぬすびと

釜盜人の裁判と役人の奇智

（注意）

一、釜盜人、ねざりを唯一の理由として釜を盜まずと主張せり。然るに役人の奇智よく其の釜を持ち去る方法を觀破せしことを思はしめざるべからず。

一、對話により其の人物の心的狀態を觀破せしむべし。

一、最後の一段に注意すべし。

（凡三時）

綴り方　自由選題

第十　うめぼし

梅干の經歷談

（注意）

一、かく段落なき詩にては全体的に取扱ふべし。

一、老人の苦勞の物語として見るも面白し。

（凡四時）

書き方　第十一課の細字練習（鉛筆）

九　第十一　茶

茶に關する智識

（注意）

一、此の文は兒童を茶畠に引卒して一々指摘して說明せる如く記せしもの、其の心して取扱はるべし。

（凡三時）

一〇　第十二　蝶

蝶の美しく愛らしきこと

（注意）

一、最後の段の作者の注意につきては作者の精神を誤らぬ樣にすべし。

（凡三時）

綴り方　八週の成績の批正　特に綴文の態度につきて批評すべし。

一一　第十三　小子部のすがる

小子部すがるの滑稽的逸話

（注意）

一、書記の傳說

一、すがるが三諸山に至りて雷を捕へし傳說を簡單に話してきかせ、かゝる勇將にかゝるやさしき滑稽あるとのやうに說くを要す。

書き方　第十三課の細字練習（鉛筆）

一、雄略天皇の農蠶に御心を用び給ひしこと及び寛大におはせしこともあはせ知らしむべし。

一二　第十四　ていしやば　（凡四時）

一、至る所に國民道德の美點が含まれてゐる見のがすべからず。

停車場の光景

（注意）

一、作者の位置及び觀察の順序をよく知らしむべし。

一三　第十五　汽車の旅　（凡四時）

文太郎の汽車旅行によりて地理的の基本觀念を養ふ

（注意）

一、汽車のすれちがふ時、その速度二倍となりて非常に速きものなり。

一、左右の景色の變化によりて、如何に汽車が迅速なるかを推知せしむべし。

一四　第十六　かみなり　（凡四時）

假作物語によりて、雷は高きものゝある所へ落つるものなること

（注意）

一、雷に關する智識を與ふると共に、友吉の友情を想はしむべし

一五　第十七　瓜

瓜の種類、形狀及び食用法

（注意）

綴り方　自由選題

書き方　書き方手本上五、六頁

綴り方　十二週の成績の批正

書き方　書き方手本二十五、二十六頁

一、常体の口語は敬体の口語と比較せしむべし。

一、此の課を教授し終りたる後、瓜の一括表を作らしむべし。

一六　第十八　カウモリ　（凡三時）

蝙蝠の話によりて二心をもつことの不德なること

（注意）

一、此の文は蝙蝠の話によりて、二心をもつべからざることを戒めたるもの。

一、蝙蝠の形態及び習性を知らしむべし。

一七　第十九　炭と油　（凡五時）

炭と油の種類及び其の用途

（注意）

一、第三、四、五段に重きを置きて教授すべし。

第二十　虫のこゑ　（凡二時）

虫の聲に對する趣味を養ふ

（注意）

一、實感にふれしめ十分に趣味を味はしむべし。

綴り方　自由選題

綴り方　第十六週の成績の批正

第二學期

豫定教授時數　（讀み方　凡六十四時　綴り方　凡九時　書き方　凡七時）

一　第二十一　はがき　（凡五時）

二　手紙ことに端書を認める心得

綴り方　小學校につきて書簡文數葉を得讀み方第二十一課と相まつて書簡文につきての指導を行ふべし。

（注意）
一、此の課は分節せずして全体的に取扱ふを可とす。
一、往復兩文の比較をなさしむべし。
一、母とおちよの對話を離れて内容を十分に會得せしむべし。

書き方
第二十一課の端書文の細字練習
端書大の半紙に清書せしむべし。

三　第二十二　マツリ　（凡三時）

祭の賑かにして活氣を負べること
（注意）
一、作者の位置及び着眼點に注意せしむべし。
一、常体の口語文は敬体の口語文と比較せしむべし。

綴り方
自由選題

四　第二十三　鹿の水かゞみ　（凡四時）

鹿のかり犬に捕はれたる話――分外のことを望むべからざること。
――天分に安ずべきこと。
（注意）
一、鹿の形態につきてよく知らしむべし。
一、始めにも終りにも訓戒めきたることなくして自然に諷刺しある所面白し。

五　第二十四、二十五　ひよどりごえのさかおとし（一）（二）　（凡七時）

源義經の武勇
（注意）
一、源平兩氏につきて豫備的說話を要す。

書き方
書き方手本上三十三、三十四頁
綴り方
第三週の成績批正

一、作者は源氏方の義經につきまとへることに注意せしむべし。

六　巻六　第一　日本　（凡五時）

日本の國は景色の美しきこと
（注意）
一、此の文はこれまで、授けたる文と異り作者が度々日本の海●峯山●川●四季の景色を眺めこれらを總合し記述したるものなり。
隨つて作者の位置は自然に消去る道理、こゝにては作者が日本の景色の美なることを表す爲に、如何なる材料を選擇せしかに着眼せしむること肝要なり。

書き方
巻六第一課の細字練習（鉛筆）

七　第二　四季　（凡三時）

四季の區別と其の氣候
（注意）
一、文語文始めて本課にあらばる。文語は嚴密に常体の口語に置換せしむるを要す。
一、教授し終りたる後四季の圖表を製作せしむべし。

綴り方
自由選題

八　第三　遠足　（凡三時）

遠足したること
（注意）
一、十頁の地圖は本文と比較してよましむること肝要なり。

書き方
第三課の細字練習（鉛筆）

第四　ガン　（凡三時）

雁の飛ぶ時のこと

（注意）
一、雁、燕の標本により十分に形態を觀察せしむべし。
一、文章教授に於いて作者がいかなる心持にて書きたるかを教ふべし。

九　第五　取入れ　（凡三時）　縫り方　第七週の成績の批正

取入れの順序――實業的思想を養ふ。
（注意）
一、此の文は年長者が幼年者を郊外に連出して實際の取入れの狀況を目擊せしめつゝその順序を說明したる態度。
一、農夫の一年中の最大快樂なることを想はしむべし。

一〇　第六　物サシトマストハカリ　（凡三時）　書き方　第五課の細字練習（鉛筆）

度量衡の種類及び各單位
（注意）
一、尺、桝、秤の直觀を用意し、明確に度量衡に關する智識を授くべし。
一、文語は常体の口語に比較し理解せしむべし。

一一　第七　かしこい子ども　（凡四時）　縫り方　自由選題

鄧王冲及び司馬温公の逸事によりて機智を養ふ
（注意）
一、三國誌卷二十鄧王冲傳及び宋史司馬温公傳を參考すべし。
一、なほ他の逸話によりて機智を練習するを要す。すべて機智を

感せしむるには兒童をして身其の境遇にありてその難題を解決せざるべからずと考へしむるを要す。

一二　第八　ヤクワントテッピン　（凡三時）　書き方　書き方手本下三、四頁

銅・鐵の性質及び効用
（注意）
一、銅と鐵と各自分の長所を揭げて、對手の短所を抑へたることに注意せしむべし。
一、鐵は銅よりも効用多きことを知らしむべし
一、教授し終りたる後兩者の性質及び効用を表に纒めしむべし。

一三　第九　よいでつち　（凡四時）　縫り方　第十一週の成績の批正

直吉の正直なりしこと正直の大切なること
（注意）
一、作者の動機は直吉の正直を畫かんとするにあり、直吉の正直は長松の不正直によりて一層發揮せらる。直吉を長松と對比せしめたるは作者の苦心のある所。

一四　第十　織物　（凡三時）　縫り方　年始狀の書方に關する說明

織物の種類及び原料
（注意）
一、織物の一覽表を作製せしめ以つて內容を總括すべし。
一、綿の木、麻、からむし等の實物及び絹織物、木綿織物、麻織物、毛織物等を用意すべし。

一五　第十一　太郎の日記　（凡三時）

日記の効用と日記の内容

（注意）

一、日記は一種の備忘錄なれば、文は簡潔明瞭を尊ぶ、而して短時間に認め、長年月の間之れを連續することによりて價値あることを知らしむべし。

一、本課によりて日記に書くべきことを抽出せしむるを要す。

一、日記の書き方には變化あらしむべく、同一の形式に流れざる樣注意すべきことを知らしむべし、

一、日記を實際に認めしむべし。

書き方
書き方手本下三十七、三十八頁

書初に清書せしむべし。

一六　第十二　京都からの手紙　（凡四時）

書簡文によりて京都の名勝を知らしむ

（注意）

一、すべて書簡文を理解せしむるには先づ發信者と受信者との關係境遇を知らしめて後記述の順序言葉遣等に注意せしむべし。

一、此の文を教授する間に父の子に對する溫情を知らしむべし。

一、京都の地圖及び寫眞繪葉書の類を用意すべし。

綴り方
日記文の指導
（讀み方第十一課と相俟って）
正月休業の中の日記を綴らしむべし。

第十三　コトワザ　（凡三時）

諺に對する趣味を養ふ

（注意）

一、諺は一々適切なる實例を擧げて經驗より歸納したる理法がよく簡潔なる言にいひあらはされたるものなることを知らしむ。

一、その他類似のものを知らしむべし。

第三學期

豫定教授時數（讀み方 凡四十四時　綴り方 凡六時　書き方 凡五時）

一　第十四、十五　豐臣秀吉（一）（二）　（凡九時）

二　豐臣秀吉一生の重なる事蹟

三

（注意）

一、太閤記、逸史、豐鑑等を參考すべし。

一、歷史教授なきこと故かゝる教材は十分に內容教授に力むべし。

綴り方
正月休業中の最も樂しかりし一日を綴らしむべし。

綴り方
第一週の成績の批正
書き方
書き方手本下十三頁

第十六　鹽と砂糖　（凡三時）

鹽と砂糖の味、効用、製法につきて知らしむ。

（注意）

一、鹽と砂糖の製法につきては稍精しく教授すべし。

一、製鹽、製糖の圖及び砂糖きびの圖を用意すべし。

一、文語は嚴密に常体の口語に譯さしむべし。

四　第十七　上杉謙信　（凡五時）

五

上杉謙信の强さこゝろ親切

（注意）

一、甲陽軍鑑、澁谷手錄によりて多少內容を敷衍すべし。

一、歷史の背景を十分に生かすこと肝要なり。

綴り方
自由選題
書き方
第十四課の細字練習（鉛筆）

第十八　人のなさけ　（凡四時）

おつるとおふみが盲人をたすけたること

（注意）

一、情のこもれる韻文なり。分節的取扱は不得策なり。

一、十分に同情心を起さしむべし。

綴り方　第四週の成績の批正

第十九　熊　（凡三時）

熊の形態及び習性

（注意）

一、第四、五段は趣味ある説話によりて熊の習性の一般を知らしめんとしたるものなり。されば此の他に習性上の興味ある話をしてきかすべし。

書き方　第十八課の細字練習（鉛筆）

第二十　材　木　（凡三時）

主要材木の名稱、性質及び用途

（注意）

一、文語を口語に譯せしむべし。

綴り方　自由選題

第二十一　古　机　（凡三時）

古机の物語によりて兒童の反省を促す

（注意）

一、此の文は古机が客觀的に善兒童と惡兒童との性行を對比して表出したるものなり。

一、かゝる教材は不言の裡に教訓する樣に取扱ふこと肝要なり。

第二十二　ひね上げ　（凡三時）

上棟式の次第を知らしむ

（注意）

一、上棟式は我國特有の儀式にして我が國民が一般に家を愛する念慮の厚きによりこの風俗を來せるものなり。故に美風として永續せしめんことを要す。

一、挿繪につきて家屋の主要部の名稱と其の任務につきて授くること肝要なり。

書き方　第二十一課の細字練習（鉛筆）

第二十三　港　（凡四時）

港の艙舶の出入、碇泊及び荷物の積卸の狀況

（注意）

一、最初に港の概觀を叙し漸次具体的に記述したる所妙味あり。兒童をして港口に立ちて直觀するの感あらしむるやう教授すべし。

綴り方　第八週の成績の批正

第二十四　大　阪　（凡三時）

大阪市の沿革及び現況

（注意）

一、大阪の地圖及び繪畫繪葉書の類を用意すべし。

書き方　書き方手本下二十一、二十二頁

第二十五　かゞへ歌　（凡四時）

忠義、忠孝、友愛、交道、誠實、修學、慈善、攝生、志操、祖先顯彰等の諸德につてき授く

（注意）
一、かゝる文は一々文法的に又は直譯的に解釋することは勞多くして効少し。かゝるものは其の語法上の事は知らずとも讀下直ちに內容の教訓を聞くが如くあらしむべし。

尋常科第四學年

第一學期

豫定教授時數（讀み方 凡六十八時　綴り方 凡十時　書き方 凡七時）

週	教授事項（豫定時數）	綴り方及書き方
一	第一、二　楠木正行（一）（二）（凡七時） 楠木正行が忠孝兩全の武士なりし事を知らしめ以て國民的思想を養ふ （注意） 一、國民道德の骨子たる忠孝の儀表として千古に稱へらるべき材料此の精神を味はしむる事に力むべし。 一、含蓄の深き語多し特に注意して授くべし。 一、太平記の文を參考して事實も敷衍し以つて理解を明瞭ならしめると同時に國民的情操を養はん事に努むべし。	綴り方 「文は何の爲に書くか」に就きて說話しやるべし。（綴り方も習ふことの心要を知らしむ）
三	第三　ゐなかの四季（凡三時） 田舍に於ける四季を授け田園趣味を養ふ （注意） 一、田舍の自然と人事に就きて深き趣味をもつて書ける物故文によりて此の情趣を豐に起さしむべし。	書き方 書き方手本上一、二頁

週	教授事項（豫定時數）	綴り方及書き方
四	第四　商業問答（凡三時） 商業に關する一般の智識を與ふ （注意） 一、引例の說明を明瞭ならしむること、說明に變化あらしむる事に注意すべし。 一、一般の商業的智識を與ふると共にこれ等の文を通して商業道德實業的思想等を養ふことに努むべし。	綴り方 自由選題 今年度も前年度に引續き情叙た指導の方針として進むべし。 書き方 手本三、四頁
五	第五　問合の手紙（凡二時） 問合及び其の返事の手紙に關する心得を知らしむ。 （注意） 一、先づ發信者と受信者との位置關係を定め、其の境遇を知らしむること肝要なり。 一、依賴文及び其の返事に必要なる事項を知らしむべし。 第六　豆の一族（凡三時） 豆科植物に關する智識を與へて理科的思想を養ふ （注意） 一、本科は婉曲なる講話の模範として見るべきものなれば、對話	綴り方 第二週の成績の批正

練習をなさしむべし。

一、純説明文と比較せしむるを要す。

書き方 第五課細字練習（鉛筆）

六　第七　塙保己一　（凡四時）

塙保己一の成功及び逸話

（注意）

一、「サテ〳〵、目アキトイフモノハ不自由ナモノダ」。の警句は前景に一致をかきて背景に一致を求めたる所に面白味あり。此の點をよくわきまへて取扱ふを要する。

一、「番町で目あき目くらに物をきく」。の川柳の意義をよく知らしむべし。

一、本縣出身の偉人故傳記に就いては敷衍附加して教授すべし。

綴り方 自由選題

七　第八　手ノハタラキ　（凡四時）

手を働かしむる事の必要なること

（注意）

一、形式として種々なる事を列擧するに同じ言廻しをせず文の要領として普通人の思ひ當らぬ所にまで論及せる所面白し。

八　第九　蠶　（凡四時）

蠶に關する知識を授けて理科的思想を養ふ

（注意）

一、蠶の變態の順序を明にする標本若しくは繪畫を用意すべし。

一、近くの農家につきて蠶の生活狀態を觀察せしむべし。

綴り方 第七週の成績の批正

九　第十　やき物とぬり物　（凡二時）

燒物と塗物との製法を知らしめて、工業に關する思想を養ふ

（注意）

一、燒物と塗物との順序を示せる繪畫を用意すべし。

一、言語に抽象多し・補説具体化に力むべし。

書き方 書方手本五、六頁

一〇　第十一　勸工場　（凡三時）

勸工場の内容を知らしめて、商業思想を養ふ

（注意）

一、勸工場は各種の商店を綜合して一所に集めたるが如きものなること及び巧みに空間を利用せることなどを知らしむべし。

一一　第十二　山内一豐の妻　（凡四時）

山内一豐の妻が夫を助けて出世の基を開きたる事實

（注意）

一、當時の武士が馬を大切にしたる事を知らしむべし。然らざれば一豐夫妻の問答も信長の激賞も其の眞意を解せしむること難かるべし。

一、藩翰譜又は常山紀談の文を參照すべし。

綴り方 自由選題

一二　第十三　家の紋　（凡二時）

家の紋どころに關する知識を與へて國民的思想を養ふ

（注意）

一、家の紋は我が國特有のものなれば國民的思想の養成に資する

書き方 第十二課の細字練習（鉛筆）

こと多し。兒童各自の紋所を吟味せしむることより始めて、紋について感興を惹起せしむること肝要なり。

一二　第十四　西洋紙と日本紙　（凡四時）

西洋紙と日本紙との特質及び用途を知らしめて理科的思想を養ふ

（注意）

一、此の文はもと西洋紙と日本紙との特質及び用途を比較説明したるもの興味多からしめんが爲に人格を與へて互に議論せしめたるなり。

一、互に自己の長所を揚げて、相手の短所を抑へたることに注意せしむべし。

一、西洋紙は議論には日本紙に負けたるが如き形になり居れども其の實西洋紙の方が用途の多きことに注意せしむべし。

一三　第十五　郵便の話　（凡四時）

郵便規則の大体及び郵便物取扱上の心得

（注意）

一、純説明文と比較せしむべし

一、郵便の規則については多少教材を敷衍し一括表に纒めしむること肝要なり。

一四　第十六、十七　東京見物　（一）（二）　（凡四時）

我が國の帝都たる東京の地理の一般

（注意）

綴り方　第十週の成績の批正

綴り方　書簡文に就いての講話。書簡文は對者によりて、特に異るべき事を知らしむべし。

書き方　書き方手本上十三、十四頁

一、東京の地圖及名所の繪畫又は繪葉書を要す。

一、教材を多少敷衍すべし。

一五　第十八　犬　（凡四時）

犬の種類、性質及び効用に就いて授く

（注意）

一、挿繪と本文とを照合せしむるを要す。

第十九　水どからだ　（凡三時）

水と身体との關係を知らしめて理科的思想を養ふ

（注意）

一、水と健康については特に注意して授くべし。

一六　第二十　桃をおくる手紙　（凡四時）

物品贈答に關する心得

（注意）

一、文に温情のこもれるは特に注意せしむべし。

一七　第二十三　何事も精神　（凡三時）

不撓不屈の精神を養ふ

（注意）

一、兒童をして勇往邁進するの勇氣を起さしめん事に努むべし。

綴り方　書簡文の自由選擇

綴り方　第十五週の成績の批正

書き方　先週の綴り方の成績を書簡用箋に淸書せしむべし。（鉛筆）

第二學期

豫定教授時數
（讀み方　凡六十四時
綴り方　凡八時
書き方　凡八時）

一　第二十一、二十二　海の生物　（一）（二）（凡七時）

二　海の生物の種類形態及び効用を知らしめて理科的思想を養ふ

（注意）

一、此の課の比喩は説明を明瞭にせんためのものにして比喩うのものに面白味あるに非ず。

一、海草及び海の動物は繪書を用意すべし。

或は所在の小學校につきて實物を觀察せしむべし。

一、七十五頁の挿繪は向つて右より一はあらめ、二はひぢき、三はこんぶ、四はてんぐさ、五はあをのり、六はわかめ。

綴り方　夏取材は自由とす。

書き方　手本上二十五、二十六頁

三　第二十五、二十六　航海の話　（一）（二）（凡六時）

四　航海の話によりて海國思想を養ふ

（注意）

一、船長の話の整然として一糸亂れざることに注意せしむべし。

一、前課と連絡し海についての理解を與ふることに努むべし。

綴り方　第一週の成績の批正

書き方　第二十課の細字練習（卷紙に）（鉛筆）

五　第二十六　廣瀬中佐　（凡四時）

廣瀬中佐の壯烈なる最後について知らしめ忠君愛國の思想を養ふ。

（注意）

一、中佐の國家を思ふ念の厚きこと部下を愛する心の深きことをよく〳〵知らしむべし。

一、旅順閉塞に關する報告を參照し多少材料を附加し敷衍し中佐及び兵曹長の壯烈なる行動に感激せしむるを要す。

綴り方　自由選題

卷八　第一　皇太神宮

六　皇太神宮の尊きいはれ　（凡三時）

（注意）

一、皇祖の御威德は申す迄もなく大神と皇室及び國民との關係を說き敬神愛國の念を起さしむべし。

一、一年中の主だちたる祭日、皇室及び國家のことについては具体的說明を要す。

七　第二　參宮日記の一節　（凡三時）

皇太神宮の（內宮）有樣及び所感

（注意）

一、前課と連絡して敬神の念を熾ならしむべし。

一、日記文を書く用意を知らしむべし。

一、作者が客觀的に記載せる箇所と主觀的に記載せる箇所とに注意して教授すべし。

書き方　書き方手本二十七、二十八頁（鉛筆）

第三　たけがり　（凡二時）

貴狩に對する感興

（注意）

一、かゝるおもしろき歌は暗記せしむべし。

綴り方　第五週の成績の批正

第四　寫眞をおくる手紙　（凡三時）

物品贈答に關する心得

（注意）

一、お花の境遇及びお花と伯母との關係及伯母の人となり等を知らしむることと肝要なり。

一、兩者の温情も味はしむることに努むべし。（凡三時）

八　第五　働クコトハ人ノ本分

勤勞の美風を養ふ

（注意）

一、本課の如きは十分に取扱ひて遺憾なからんことを期すべし。

九　第六　松下禪尼　（凡四時）

松下禪尼の節儉

（注意）

一、北條時賴の仁政を布きたることを敷衍して末文を理解せしむべし。

一、徒然草の文を參照すべし。

一、此の課は分節せずして全体的に取扱ふべし。（凡六時）

一〇　第七、八　白雀

西洋の或る農夫の友達が巧に農夫の朝寢を誡めたる假話によつて、朝寢が人を不幸の境遇に陷るゝ事を悟らしむ。

（注意）

一、農夫の友人が農夫をして財産の減じたる事の原因を氣付かしむるやう自然に導きたる方法の如何に巧なるかに注意せしむべし。

一一　第九　ワザクラベ

名工に對する國民傳說によりて技術神に入れば人を驚かすものあることを知らしめ、藝術に對する趣味を養ふ

（注意）

一、百濟川成と飛驒工の逸話なり。今昔物語を參照すべし。

一、挿繪によりて時代風俗の一端をも注意せしむべし。（凡三時）

一二　第十　かぢ屋

老鍛冶の勤勉

（注意）

一、世の變遷及び我國特有の日本刀の由來を知らしむべし。

一、挿繪は昔の刀鍛冶の仕事場をうつしたるものなり。

一、勤勞の尊いことを知らしむべし。

一三　第十一　花ごよみ　（凡四時）

四季折々の花に對する知識を與へ且つ趣味を養ふ

（注意）

一、本課は難語句多く且つ省略せられたる部分も少なからざれば注意して授くべし。

書き方
第四課の細字練習（鉛筆）

綴り方
自由選題

書き方
書き方手本上三十三、三十四頁（鉛筆）

綴り方
第九週の成績の批正

書き方
書き方手本下十一、十二頁

綴り方
自由選題

一四　第十二　マッヂ　（凡三時）

マッチの製法を知らしめて工業に關する思想を養ふ

（注意）

一、我が國のマッチの製造高及び輸出先等につきて知らしむべし

一五　第十三　火事　（凡三時）

火事の恐しき光景。附火の効用及び火を取扱ふ上の注意

（注意）

一、此の文は火事の光景を叙したるが主にして火の効用火の取扱ひについての注意は附說と見るべし。

一、此の文は一人の子供が警鐘をきいて二階又は物干臺より火事の光景を眺め遂に火の効用火の取扱ひに思ひ及ぼしたるものとして取扱ふべし。火事を眺めつゝ種々想像を逞しくせる點に注意せしむべし。

第十四　電報　（凡三時）

電報に關する大体の規則

（注意）

一、本課は卷七第十五郵便の話と相待ちて通信に關する知識を與ふる主意にて提出したるものなればそれと連絡を保つべきなり

一、本課は通常電報を發信する一通の說明をなせり。これにつれて電報規則の一般を授け置くべし。

一、本課にては左の事項を綴めしむべし。

書き方
書き方手本下十三、十四頁

綴り方
第十三週の成績の批正

1. 電文は成可く短く書くべきこと。
2. 電文にては叮嚀なる言葉を使はぬともよし。
3. 言はずともわかることは書かぬこと。
4. 片假名字と大漢數字のみにて認むること。
5. 十五字までを一音信とすること。
6. 濁音文字は二字に數ふること。
7. 發信人の名も字數の中に入れらること。
8. 賴信紙に書きて電信係へ差出すべきこと。

一、賴信紙を用意すべし。

一六　第十五　藤原鎌足　（凡四時）

鎌足が入鹿を誅したる事實を中心として當時の歷史的知識を授く

（注意）

一、抽象的なる語句は具体的に說明し歷史的事實を知らしむべし

一、挿繪につきて說明を要す。

書き方
書き方手本下十三、十四頁の書き初をなさしむべし。

第三學期

豫定教授時數
讀み方　凡四十四時
綴り方　凡六時
書き方　凡五時

一　第十六　鳥　（凡四時）

鳥類の種類及び形態を知らしめて理科的知識を養ふ

（注意）

一、獨立して理科教授をせぬこと故かゝる教材はその心して取扱

綴り方
小學校の同一學年の兒童の綴り方優良文數篇を得て精叙の指導をなすべし。

ふこと

一、本課は段落にいかゞはしき點あり内容によりて整理すること

一、鳥の習性と形態との關係を知らせ一にその形態を辯別して緻密に觀察せしめ確實なる知識を與ふべし。剝製若しくは正確なる繪畫を示して教授すべし。

綴り方　お正月。取材は自由

第十七　近江八景　（凡三時）

近江八景の美を鑑賞せしめ風景の美を愛する情を養ふ

（注意）

一、八景の繪畫又は繪葉書を用意すべし。

一、朗讀によりて十分に味はしむべし。

書き方　書き方手本下十五、十六頁（鉛筆）

第十八　木綿着物の由來　（凡四時）

木綿着物の出來る次第、綿の木、藍の草等に關する知識を授く

（注意）

一、綿の木藍の草等は實物又は繪畫を用意すべし。

一、本課は工藝の趣味を養ふ點より實業的材料なれども木綿藍草等の説明は大いに博物と調係あればその心して授くべし。

綴り方　第二週の成績の批正

第十九　手紙　（凡三時）

懇願するについての心得及び其の返事の心得

（注意）

一、小僧の手紙には恭敬の態度見え、主人の手紙には鷹揚なる態度あらはる。手紙には身分相當の言葉遣をする事が大切なる要

件なることを知らしむべし。

一、文中にあらはれたる主從の情合を味はしむべし。

書き方　第十九課の手紙を卷紙に淸書せしむべし。（鉛筆）

第二十　胃と身体　（凡五時）

身体の各部がいさかひを起したる寓話によりて共同一致の必要を知らしむ

（注意）

一、本課は「世は凡て相持」といふ事を面白く説く爲に胃を始め口・耳・目・手・足等を擬人視してこれらにいさかひを起さしめたるなり。作者の動機を探らしむること肝要なり。

一、胃の説論の如きは論理一貫演説の模範となるべきものなればこれによりて公衆に對する話し方の練習をなさしむべし。

一、本課は殊に主眼の徹底を期することに努むべし。

綴り方　自由選題

第二十一　虎と猫　（凡三時）

虎と猫とを比較して二者の類似せることを知らしめ、博物的知識を授く

（注意）

一、本課は文の單調を避けんが爲に各段の文の構造に多少の變化あり注意して授くべし。

一、獨立して理科教授をせぬ事故その心して授くべし。

書き方　書き方手本下二十五、二十六頁

第二十二、二十三　世界の話　（凡十時）

世界の形、世界各國に關する大体の知識を授く

（注意）

一、獨立したる地理教授なき事故かゝる教材を得ることに附加教術して授くべし。

一、（一）の方は旅行体の文に記述し各國の說明をし（二）は各國といふ區別を離れて地球全体としてその大体を說明せり。その心として教授すべし。

一、世界全圖及世界各所の掛圖繪葉書等を用意すべし。（その地の小學校につきて）。

一〇　第二十四、二十五　橘中佐　（一）（二）（凡九時）

一一　日露戰爭に於ける橘中佐の悲壯なる最後を知らしめて、愛國心を養ふ

（注意）

一、廣瀨中佐の課と連絡し日露戰役の大要を知らしめて背景とすべし。

第二十六　名古屋　（凡三時）

名古屋の有樣及び名古屋市の商工業の繁盛等を知らしめて地理的趣味を養ふ

（注意）

一、名古屋市は三府に次いで盛なる大都會にして殊に工業地として日本第一といふべし。此の點に注意して授くべし。

一、名所の繪畫又は繪葉書を用意すべし。

綴り方　第六週の成績の批正

書き方　書き方手本下三十五、三十六頁

綴り方　自由選題

綴り方　第十週の成績の批正

尋常科第五學年

第一學期

豫定教授時數　讀み方　凡六十八時　綴り方　凡十時　書き方　凡七時

週	教授事項（豫定時數）	綴り方及び書き方
一 二	第一、二　草薙劍（一）（二）（凡五時） 草薙劍の由來を知らしめて愛國の念を養ふ （注意） 一、歷史教授なき事故その心して授くべし。 一、本課は特に敬語の用法に注意せしむべし。 一、古事記、日本紀等を參考すべし。	文章の長短に關する講話。文の優劣は長短によりては決せられぬ、要は想の要求に應ずべきことなることを教へ、長短二樣の範文を示すべし。
三	第三　花ノサマ〳〵（凡三時） 花の瓣・蕚・形狀・附方等を知らしめて自然を愛する念を養ふ （注意） 一、內容に重きを置きて理科的思想を養ふべし。 一、今後季節毎に實物を求め十分に觀察せしむべし。 第五　註文狀（凡三時） 註文及び其の返事に關する心得 （注意） 一、日用文慣用の起首及び結尾につきて知らしむべし。	書き方 書き方手本上一、二頁 綴り方 自由選題

一、候文は凡て大人の書狀として取扱ふ方可なり。
一、すべて註文狀には品目、數量、期日を忘れざるやう注意すべし。

四　第六　利根川　（凡四時）

利根川の水源、支流、本流、分流、河口等を知らしめて地理的思想を養ふ

（注意）
一、本文と挿繪とを比較して讀解せしむべし。
一、地圖に示されたる里及び米の度盛に注意せしめ地圖の讀み方を練習せしむべし。
一、各地の名所舊蹟の繪葉書を用意すべし。

五　第七　水兵の母　（凡四時）

水兵の母の事實によりて日清戰爭當時に於ける國民の敵愾心を知らしめ愛國の念を養ふ

（注意）
一、日清戰爭につきて大要を授け之を背景として取扱ふべし。
一、小笠原長生氏著海戰日錄を參考すべし。
一、三人の心事を讀破することに力めしむべし。

六　第八　我が陸軍　（凡四時）

陸軍に關する事を知らしめて軍事思想を養ふ

（注意）

綴り方
第三週の成績の批正

書き方
書き方手本上五、六頁

綴り方
精叙と共に略叙すべきことの必要につきて講話。註文を二三謄寫して示すべし。（今學年の主眼點をすべし）

一、挿繪の地圖によりて師團の所在地を知らしむべし。
一、本課の内容は表に纏めしめて記憶に便ならしむべし。

七　第九　靖國神社　（凡四時）

靖國神社の事を知らしめて義勇奉公の念を起さしむ

（注意）
一、内容は相當に敷衍して授くべし。
一、繪畫又は繪葉書を用意すべし。

八　第十　汽船汽車の發明　（凡四時）

今日の交通機關中最も主要なる汽船汽車の發明せられし次第を知らしむ

（注意）
一、發明の動機につきて特に附加して授くべし。
一、フルトンとスチブンソンとの含傳にして、第一段に於いて兩氏の發明といふ共通點を叙し、然る後各別々に發明の經路に及ぼせり。

九　第十一　昔の旅　（凡三時）

昔の旅行の不便及び困難を知らしめて地理的思想を養ふ

（注意）
一、昔の旅の不便及び困難を知らしめんには今の旅の便利及安樂に對照せしむるに如かず。作者の工夫のある所を悟らしむべし
一、挿繪につきては十分説明すべし。

書き方
書き方手本上十七、十八頁

綴り方
精叙と略叙につきて補説したる後自由選題にて綴らしむ。

書き方
書き方手本上十九、二十頁

一〇　第十二　箱根山　（凡四時）

箱根山の今昔及びその成立を知らしめて地理的思想を養ふ

（注意）

一、三省堂發行の「箱根」を參考すべし。

一、挿繪に示されたる「米」「丁」の度盛に注意せしめて土地の高さ及び道程などを測らしむべし。

綴り方　第八週の成績の批正

一一　第十三　旅行先の父に送る手紙　（凡二時）

旅行先の父に家郷の狀況を報知するもの

（注意）

一、候文は敬体の口語文と正確に比較して授くべし。

一、本課は記述の順序に特に注意せしむべし。

一二　第十四　駱駝來　（凡三時）

アリの話によりて親子の情を知らしむ。

（注意）

一、ナショナルリーダー四の文を參照すべし。

一、互に心もとなく思ひあへる父子の情をよく〳〵味はしむべし

書き方　書き方手本上二十三、二十四頁

一三　第十五　かぶりもの　（凡三時）

かぶりものゝ種類形狀につきて知らしむ

（注意）

一、挿繪と比較しつゝよましむべし。

綴り方　自由選題　小品數題

一四　第十六　動物の体色　（凡四時）

動物の保護色及び身振り警戒色に關することを知らしめて理科的思想を養ふ

（注意）

一、此の課にては引例の効能をよく知らしむべし。

一、ひらめ、かれひ、いか、野兎、えだしやくとり、木の葉、蝶等の實物又は繪畫を小學校につきて用意すべし。

一、内容に重きを置き敷衍して授くべし。

綴り方　第十二週の成績の批正　小品文の綴文を二三謄寫して與へて指導すべし。

一五　第十七　養生　（凡四時）

養生法に關する知識を與へて衛生上の思想を養ふ

（注意）

一、此の課は大人の作者が養生に關して兒童に命令したるものと見るべし。

一、養生法の一括表を作らしめて内容を整理し實行を促すべし。

書き方　書き方手本上二十七、二十八頁

一六　第十八　坂上田村麿　（凡三時）

田村麿の事蹟を知らしめて歴史的思想を養ふ

（注意）

一、獨立したる歴史教授なき事故うの心して授くべし。

綴り方　自由選題

一七　第十九　空氣　（凡三時）

空氣に關する知識を與へて理科的思想を養ふ

（注意）

一、空氣の存在につきては簡單なる實驗をなして觀察せしむべし

一、其の他も成可く實驗して教授すべし。

一六　第二十　雨と風　（凡四時）

四季の風雨に對する趣味を起さしむ

（注意）

一、兒童の實感に訴へて十分に味はしむべし。

書き方　書き方手本上三十五、三十六頁

綴り方　第十五週の成績の批正

一七　第二十一　水害見舞の文　（凡四時）

見舞及び其の返事に關する心得

（注意）

一、見舞文は美しき情の發露を旨とすべきことを知らしむべし。

第二學期

豫定教授時數（凡六十四時）
（讀み方　凡六十四時）
（綴り方　凡九時）
（書き方　凡七時）

一　第二十二　貯金　（凡三時）

貯金に關する知識を與へて貯蓄心を養ふ

（注意）

一、貯金台紙、通帳を用意すべし。

一、相當補說して實行に導くべし。

綴り方　第一學期中に於ける兒童の成績中に表はれたる眼を有する文の一節を集め置きて、共同批正を行ふ。

二　第二十三　菅原道眞　（凡四時）

菅原道眞公の誠忠に感せしむ

（注意）

一、歷史的事實を背景とすべし。

綴り方　自由選題

一、大鏡を參照すべし。

一、道眞が罪なくして貶せられながら、一日も皇恩を忘れざりし誠忠に感せしむべし。

一、和歌及び詩の意義をよく味はしむべし。

三　第二十四　競馬　（凡四時）

愛作が競馬の時相手の騎手を救ひし美談

（注意）

一、文部省編「教訓假作物語」を參照すべし。

一、愛作の心事をよく讀解せしむべし。

書き方　書き方手本上三十二、三十三頁

四　第二十五　貨幣　（凡四時）

貨幣の沿革及び我國貨幣の種類

（注意）

一、難解の箇所は文を表にして讀解せしむべし。

綴り方　第二週の成績の批正

五　第二十六　三才女　（凡三時）

三才女の奇才につきて知らしむ

（注意）

一、三才女の奇才を知らしむると共に趣味を養ふ事を忘るべからず。

一、文中含蓄多き語句多し注意して授くべし。

一、巧に內容補說をすべし。

一、紅梅內侍は大鏡拾遺集、小式部內侍は十訓抄全葉集、伊勢大

書き方　書き方手本上三十七、三十八頁

輔は詞華集を參考して其の事實を敷ふべし。

一、三才女のよみたる歌の意義を知らしむべし。

六　第二十七　日光山　（凡三時）

日光山の美

（注意）

一、日光山の寫眞、繪畫の類を用意して、文章の美と相照らし合はしむべし。

一、文は抽象にして簡潔体なるが故に内容は具体的に補説すべし

七　巻十　第一　日本一の物　（凡四時）

日本一の物を知らしめて地理的知識を授く

（注意）

一、挿繪の法隆寺は背面より見たるものなり。

一、寫眞繪葉書の類を用意すべし。

一、その他日本一の物を列擧せしむべし。

八　第二　葉　（凡三時）

葉に關する事を知らしめて博物上の知識を與ふ

（注意）

一、實物を兒童に採集せしむべし。

一、一事問を通じて此の課の教授と見て觀察せしむべし。

第三　保安林　（凡三時）

保安林の意義について知らしむ

綴り方　小品三題　題材（自由）

書き方　書き方手本下一、二頁

綴り方　第六週の成績の批正

（注意）

一、明治三十四年四月法律第四十六號森林法を參照すべし。

一、本課は主として保安林の意義を知らしむるにあり。第一、二三、四、五段は森林の効用を説明したるものにして第二段の豫備説明に過ぎず。

九　第四　家　（凡三時）

家を組立つる木々の會話――共同一致の必要を知らしむ。附家の構造及び木材の産地

（注意）

一、尋四の胃と身体と同一の主眼の下になれるもの。

一、家各部の名稱につきては一々家屋そのものにつきて知らしむべし。

一〇　第五　紫式部と清少納言　（凡三時）

紫式部と清少納言との才學につきて知らしめ文學史上の知識を與ふ

（注意）

一、背景たる時代について授けたる後教授に入るべし、

一、挿繪によりて當時の家具調度服裝等につきて知らしむべし。

一一　第六　本　（凡四時）

本の由來及び印刷に關する知識を與へて工業思想を養ふ

（注意）

一、活字及木版等を用意すべし。

綴り方　自由題　但書簡文中口語体

綴り方　第十週の成績の批正　口語体の書簡文の範文一、二謄寫し與へて指導すべし。

書き方　書き方手本上五、六頁

一、少年工藝文庫中の活字の卷を參照すべし。

第七　張良と韓信　（凡三時）

張良と韓信との逸話によりて大志あるものはよく小事に忍ぶ事を悟らしむ

（注意）

一、文語文として頗る有力に正確に語句が使つてある、特に注意して授くべし。

一、張良は史記留侯世家、韓信は淮陰侯列傳を參照すべし。

第八　入營する友におくる　（凡一時）

入營するについての心得

（注意）

一、候文は一に正確なる敬体の口語と比較すべし。

第九　冬景色　（凡三時）

冬景色につきて知らしめて自然を觀察する能力自然美に對する趣味を養ふ

（注意）

一、本課は寫生的記事文の好模範たり。作者の位置着眼點觀察の順序をよく知らしむべし。

一、此の文を讀む時は冬の景色をまのあたり見る心地して何となく寂寥を感ず是作者が冬景色を緻密に觀察し寂寥の感を興ふる材料を選んで巧に排列したるによる。

書き方
書き方手本上十一、十二頁

第十　甘藷　（凡三時）

甘藷の傳來の經路及甘藷が今日の如く全國到る處に作らるゝに至りし所以

（注意）

一、甘藷の恩人として青木昆陽を知るものは多けれど井戸安左衛門を知るもの少し。本課は氏の隱れたる恩人を紹介したる事に注意すべし。

一、安井好尙氏編「井戸正明正傳」を參考すべし。

第十一　たしかな保證　（凡三時）

清潔、謹愼、親切、謙遜、寡言、禮儀、緻密溫順等の美德を具体的に知らしむ

（注意）

一、面白い話の中に此の課の主眼點を、確實に徹底せしむべし。

第十二　水師營の會見　（凡三時）

武將の淡泊なる面目、乃木將軍の忠魂、嚴格なる精神に感せしむ

（注意）

一、豫備的說話をなし背景をつくる必要あり「大役小志」など良參考書たらん。

一、兩將軍會見の場面及び二將軍の心情等を想像せしめて材料を活かしめ叙事詩の趣味を養ふべし。

第十三　花　莚　（凡三時）

綴り方
自由選題

書き方
第八課の細字練習（軟筆にて卷紙に）

綴り方
第十三週の成績の批正

花莖に關する事を知らしめて實業的思想を養ふ

（注意）

一、本課を教授するに當り、一人の工夫が一國の踏出品を增加せしむる事を深く思はしめ實業的奮發心を喚起せしむるを要す。

一六　一、花莖及圖の實物を用意すべし。

第十四　模樣と色　（凡四時）

模樣と色とに關する知識を與へて意匠の趣味を養ふ

（注意）

一、考案書掛圖を用意すべし。

書き方　書き方手本下十一、十二頁　書初に清書

第三學期

豫定教授時數（讀み方　凡四十四時　綴り方　凡七時　書き方　凡四時）

一　第十五　齋藤實盛　（凡四時）

意地を重んじたる古武士の面影をしのばしむ

（注意）

一、源平盛衰記の文を參考して豫備的說話をなすを要す。

一、本課の文章は原文の調子をとりたれば朗讀に注意せしむると同時に語句を叮嚀に解釋してその意義を授けざるべからず。

二　第十六　兵營内の生活　（凡四時）

兵營内の生活を知らしめ兼て近狀を通知するについての心得を授く

（注意）

綴り方　お正月　小品三題

綴り方　第一週の成績の批正

一、兵營内の規律については特に注意して授くるを要す。

一、ひいては工場内の生活と對照して考へしむ

三　第十七　足尾銅山　（凡三時）

足尾銅山によりて銅鑛採掘及び銅の製煉等に關する知識を授け地理的思想を養ふ

（注意）

一、繪畫又は繪葉書類を用意すべし。

四　第十八　捕鯨船　（凡四時）

冒險事業中の最も壯快なる捕鯨の記事によつて實業的思想を養ふ

（注意）

一、七、八段は附說と見るべし。

一、此の他の捕鯨法については特に敷衍して說明するを要す。

五　第十九　勇ましき少女　（凡三時）

外國の勇ましき物語によりて博愛の精神を養ふ

（注意）

一、ロングマンス、ニューリーダー卷四の文を參照すべし。

一、兒童が本課の教材に同化せられるやう教授し博愛的情操を陶冶する事に力めざるべからず。

六　第二十　温泉　（凡四時）

我國温泉の分布を知らしめて地理的思想を養ふ

（注意）

書き方　書き方手本下十七、十八頁

綴り方　第二學期の兒童の成績中に現はれたる報の文の一節を集め置き共同批正。

書き方　書き方手本下二十三、二十四頁

綴り方　自由選題

一、日本地圖及び各地の温泉場の繪葉書等を用意すべし、

七　第二十一　人の身体　（凡四時）

人の身体の構造に關して大略の知識を授け以て衛生思想を養ふ

（注意）

一、獨立して生理を授けぬ事故内容を敷衍附加して授くべし。

一、人体解剖模型を用意すべし。

八　第二十二　あいぬの風俗　（凡三時）

あいぬの風俗を知らしめて地理歴史上の知識を授く

（注意）

一、北海道舊土人保護法は明治三十二年三月法律第二十五號を見るべし。

一、あいぬの風俗は寫眞又は繪葉書を用意すべし。

九　第二十三　家畜　（凡三時）

家畜に關する知識を授けて農業思想を養ふ

（注意）

一、本課教材にあらはれぬものも附説しやるべし。

第二十四　松の下露　（凡二時）

亂世順逆轉倒の際に於ける主上の御艱苦を知らしめて忠義の眞心を養ふ。

（注意）

一、太平記を參照し歴史的背景を明にすべし。

書き方　書き方手本下二十七、二十八頁

綴り方　第六週の成績の批正

綴り方　自由選題

一〇　一、藤房季房の二人の忠誠に同情せしむべし。

第二十五　講話會の案内文　（凡三時）

誘引的案内及び返事に關する心得

（注意）

一、一通り意義を知らしむるに止むべし。

一、尚々書の書式を知らしむべし。

一一　第二十六　二十七　大和巡り　（凡七時）

大和の重なる名所に就いて歴史上地理上の知識を與へ懷古的詩情を養ふ

（注意）

一、作者の位置觀察の順序及び觀察に伴ふ作者の聯想をよく知らしむべし

一、出來るだけ大和に於ける歴史上の事實を敷衍して深く昔を忍ばしめ以て名所たる價値を發揮せしむべし

一、地圖によりて各名所の位置及巡路等につきて正確なる知識を與ふべし

一、近畿地方の地圖及大和名所の繪書又は繪葉書の類を小學校につきて用意すべし

書き方　第二十五課な毛筆にて細字練習（書き方手本下三十五頁な參考として）

綴り方　第九週の成績の批正

尋常科第六學年

第一學期

豫定教授時數（讀み方 凡六十八時　綴り方 凡十一時　書き方 凡六時）

週	教授事項（豫定時數）	綴り方及び書き方
一	第一　吉野山（凡四時） 吉野山の奮蹟及び櫻花によりて地理的思想及び文學的趣味を養ふ （注意） 一、此の文は結構整然記事文の模範とすべし作者の位置觀念の順序觀念に伴ふ作者の聯想感情をよく知らしむべし。 一、和歌及び俳句に對する趣味を養ふべし。 一、吉野山の寫眞及繪葉書の類を用意すべし。	綴り方　文の構想に就きて講話
二	第二　蜜蜂（凡三時） 蜜蜂の生活狀態とその飼養法とを知らしめ理科的思想を養ふ （注意） 一、近く飼蜂者あらばついて生活狀態を觀察せしむべし。	書き方　書き方手本上一、二頁
三	第三　分業（凡四時） 分業に關する事を知らしめて經濟的思想を養ふ （注意） 一、抽象的の斷定や說明多きを以て具体的事例によりて理解せしむべし。	綴り方　春小品三題
四	第四　兒島高德（凡四時）	綴り方　第三週の成績の批正

週	教授事項（豫定時數）	綴り方及び書き方
五	兒島高德の義勇に感せしめて忠義の念を養ふ （注意） 一、此の課は原文太平記の語調をとりたれば意義の困難なるものは少からず叮嚀に之れを解釋して理解せしむべし。 一、第六段は詩の解釋にして傳說と見るべし。	書き方　書き方手本上三、四頁
六	第五　瀨戸内海（凡四時） 瀨戸内海の有樣を知らしめて地理的思想及び趣味を養ふ （注意） 一、此の文は瀨戸内海附近に永住せるものが度々内海を見て總合的に記載したるものとして取扱ふべし。 一、本課は一方趣味を養ふと共に地圖と比較して各所の位置を正確に知らしめ地理的知識を授くる事に力むべきなり。 一、瀨戸内海沿岸の勝地の寫眞繪葉書の類を用意すべし	綴り方　自由選題
七	第六　我は海の子（凡三時） 海邊に住む子供の述懷によりて海事思想を養ふ （注意） 一、海に緣遠き我が縣にては理解困難なれば繪畫繪葉書類の力をかりて十分に理解せしむべし 第八　我が海軍（凡五時） 我が軍艦の名稱及各任務の一般を知らしめて國民思想を養ふ （注意）	書き方　書き方手本上九、十頁

一、言ひ廻しの變化且つ趣味ある説明に注意せしむべし。
一、我が軍艦の寫眞繪畫を用意すべし。
一、我が海軍區につきて補説すべし。

八　第九　臺灣より樺太へ　（凡四時）

（注意）
一、臺灣寫眞帳を用意すべし。
一、本文は一々地圖を比較して讀ましむべし。
一、内容に重きを置きて教授すべし。

九　第十　熊王丸　（凡四時）

熊王丸が恩義を重んじたる史的事實によりて古武士の風をしのばしむ

（注意）
一、歴史的背景の豫備的説話を要す。
一、吉野捨遺の文を參照すべし。

一〇　第十二　笑　（凡三時）

笑に關する抽象的教訓

（注意）
一、抽象的にして難解の文なれば叮嚀に教授すべし。

一一　第十三　少年皷手　（凡三時）

少年皷手の勇氣とマグドナール將軍の慈愛とに感せしむ

綴り方　第六週の成績の批正

書き方　書き方手本上十三、十四頁

綴り方　書簡文（口語体）　近況を友に報ずる文

綴り方　第十週の成績の批五

（注意）
一、佛國大革命につきて豫備的説話をなすべし。背景。
一、ロングマン氏の讀本四又はチョイスリーダーの文を參照すべし。

一二　第十四　出征兵士　（凡三時）

出征兵士の勇ましき例を知らしめ出征兵士及び父母弟妹の美しき心に感せしむ

（注意）
一、出征兵士及父母弟妹の心事をよく〳〵讀破せしむべし。

一三　第十五　招待狀　（凡三時）

招待に關する心得

（注意）
一、招待狀には場所及び日時を明瞭に記すべきこと及び場合によりては相客の模樣をも記すべきことを知らしむべし。
一、追而書の形式及び其の場合を心得しむること肝要なり。

一三　第十六　料理　（凡三時）

料理に關する事を知らしめて家事思想を養ふ

（注意）
一、各段の始めに主想のある事に注意をせむべし。

一四　第十七　時間　（凡四時）

時間の貴重なる事を知らしむ

書き方　書き方手本上十七、十八頁

綴り方　自由選題

書き方　書き方手本上二十一、二十二頁

（注意）
一、時に關する價値觀念の乏しき國民故特に注意して敎授すべし

一五　第十八　畫工の苦心　（凡三時）
畫工の苦心したる逸話によりて眞の藝術は藝術三昧に入りたるものにして始めて成し遂げらるべき事を感得せしむ
（注意）
一、雲莽雜誌の文を參照すべし。

第十九　瀑布　（凡三時）
我が國の主なる瀑布及びナイヤガラ瀑布の光景を知らしむ
（注意）
一、各瀑布の寫眞又は繪葉書の類を用意すべし。――小學校につきて。
一、養老孝子の傳說につきては十訓抄又は古今著聞集の文を參考すべし。

一六　第二十一　紡績　（凡三時）
紡績に關する大体の知識を與へて工業的思想を養ふ
（注意）
一、紡績に關する標本類を用意すべし。

一七　第二十三　物の價　（凡五時）
物の價に關する知識を與へて經濟思想を養ふ
（注意）

綴り方
第十三週の成績の批正

綴り方
暑中見舞文

綴り方
第十六週の成績の批正
右は實際に差出きしむ

一、引例によりて說明する事の有力なることを知らしむべし。

第二學期

豫定敎授時數
（讀み方　凡六十四時
綴り方　凡十時
書き方　凡六時）

一　第二十四　樺太より臺灣へ　（凡四時）
樺太の地理一班につきて知らしむ
（注意）
一、本課は「第九課臺灣より樺太へ」と趣意は同じ。
一、地圖寫眞等を用意すべし。
一、樺太開拓云々につきては特に注意して授くべし。

二　第二十六　朝鮮の風俗　（凡四時）
新版圖朝鮮の風俗につきて知らしめて地理的思想を養ふ。
（注意）
一、朝鮮風俗に關する寫眞又は繪葉書を用意すべし。

三　第二十七　平和なる村　（凡三時）
模範村によりて殖產村治敎育村會耕地整理等に關する知識を與ふ
（注意）
一、自己の町村に比較して敎授すべし。

四　第二十八　同胞すべて六千萬　（凡三時）
我が同胞六千萬人の意氣について知らしむ
（注意）

綴り方
夏小品三題

書き方
書き方手本上二十七、二十八頁

綴り方
第一週の成績の批正

書き方
書き方手本上三十五―三十八頁

一、作者の意氣の盛んなる事を感得せしめ作者と同樣の感想を起さしむべし。

五　巻ノ十二　第一　明治天皇の御製　（凡四時）　綴り方　自由選題

明治天皇の御製の御趣意を感得せしむ

（注意）

一、「聖德餘聞」及び「日月帳」を參考すべし。

六　第二　日本海海戰　（凡五時）　綴り方　第五週の成績の批正

一、明治天皇の御聖德については十分に補説すべし

世界史上空前の大海戰なる日本海海戰の有樣を知らしめて我が海軍將卒の忠勇に感せしむ

（注意）

一、日露戰爭についてその大要を豫備的説話として授くべし。

七　第三　造船の話　（凡四時）　書き方　書き方手本下一二頁

一、日本海海戰の詳報及び東郷大將に賜はりし勅語を參照すべし

造船に關する知識を與へて工業思想を養ふ

（注意）

一、横須賀なり長崎なりの造船所を背景として補説すべし。

八　第四　天氣豫報及び暴風雨警報　（凡三時）　綴り方　自由選題

氣象に關する知識を與へて理科思想を養ふ

（注意）

一、岡田武松氏の氣象學講話參照

一、天氣豫報及び暴風雨警報信號圖天氣圖を用意すべし。

九　第五　動物と植物との關係　（凡三時）　書き方　書き方手本下三四頁

動物と植物との關係の密接なることを知らしめて理科思想を養ふ

（注意）

一、教授し終りたらば全体の關係を綜合せしむべし。

一〇　第六　鎌倉　（凡四時）　綴り方　第八週の成績の批正

鎌倉の舊蹟及び之れに對する感情

（注意）

一、鎌倉地圖及び鎌倉の寫眞繪葉書の類を小學校につきて用意すべし。

一、「歴史地理大觀かまくら」「鎌倉大觀」「吾妻鏡」等を參考し内容を敷衍すべし。

一一　第七　鳥居勝商　（凡四時）　書き方　書き方手本下十一、十二頁

鳥居勝商の苦節附調伊企儺の勇氣につきて知らしむ

（注意）

一、簡潔なる文体の快味に注意せしむべし。

一、鳥居勝商は參謀本部編纂の日本戰史長篠役常山紀談事實文編を伊企儺は日本書紀を參考すべし。

一二　第八　日本の女子　（凡三時）

歴史的事實によりて日本女子の美德を知らしめ女子たるものゝ心得を説く。

（注意）
一、上毛野形名の妻は「日本書紀」
瓜生保の母は「太平記」
孝女お房は「尋四修身書」
稲生恒軒の妻は「尋二修身書」
松下禪尼は「尋讀卷八」
鈴木今右衛門の妻は「尋三修身書」
山内一豊の妻及び楠木正行の母は「尋讀卷ノ七」
水兵の母は「尋讀卷九」を參照すべし。

一二　第十　公事と私事　（凡三時）
私事は輕く公事は重きことを知らしむ
（注意）
一、高虎と嘉明との話は野史德川實紀窓のすさみを關相如と顏廉との話は史記を參照すべし。

一三　第十一　阿蘇山　（凡三時）
阿蘇山の成立附火山の破裂につきて知らしむ
（注意）
一、富士山の古歌一二を知らしむべし。
一、火山の破裂につきては補說すべし。

一四　第十二　我が國の農業　（凡三時）
我が國農業の現狀及び改良すべき點を知らしめて農事思想を養ふ

綴り方　思ひ出の記（二週にて）
綴り方　思ひ出の記（つゞき）
綴り方　第十二、十三週の成績の批正

（注意）
一、內容は十分に補說しやるべし

一五　第十三　國產の歌　（凡四時）
我が國の產物を知らしめて產業に勵むべき事をおもはしむ
（注意）
一、本課は韻文としての取扱をなすに及ばず。
一、內容を十分に說明すべし。
一、地圖によりて各產地を明示すべし。

一六　第十四　貿易　（凡三時）
外國貿易の現狀今後商人の注意すべき點を知らしむ
（注意）
一、內容を十分補說すべし。

第十五　南滿州鐵道　（凡四時）
南滿州鐵道、鐵道附近の都邑及び古戰場を知らしめ地理思想を養ふ
（注意）
一、內容を十分補說すべし。
一、寫眞繪畫の類を用意すべし。

書き方　書き方手本下十五、十六頁　書初に淸書せしむ
綴り方　年始狀に關する講話實際につくらしむ

第三學期

豫定教授時數　讀み方　凡四十四時
綴り方　凡六時
書き方　凡五時

一　第十六　歐羅巴の三大都　（凡五時）

二　歐洲の三大都たる倫敦巴里伯林の模樣を比較して知らしむ

（注意）

一、三大都を中心として各國々の國情等を補説すべし

一、寫眞繪畫の類をそれ〳〵用意すべし。

三　第十八　苦　樂　（凡四時）

一、挿繪巴里の凱旋門獨逸市街英國議事堂について説明すべし。

樂天的人物となるべきことを知らしむ

（注意）

一、本課の精神につきては十分に會得せしむべし。

四　第十九　コロンブス　（凡四時）

コロンブス亞米利加發見の次第を知らしめて其の堅忍不拔の精神に感せしむ

（注意）

一、世界地圖によりてその航路を確實に知らしむべし。

一、挿繪の説明を要す。

第二十　辻　音　樂　（凡三時）

佛蘭西の名高き音樂者アレキサンドルブーシエーの逸話によりて音樂の趣味を養ふ

（注意）

一、文章の美を十分味はしむべし。

一、ブーシエーの名を最後にあらはしたる作者の工夫に注意せしむべし。

書き方　書き方手本下十七、十八頁

綴り方　雜論文に關する講話　範文なし、二、三謄寫し與へて指導

綴り方　樂中見舞の文

書き方　書き方手本下十九、二十頁

五　一、ブッハイム讀本卷ノ二の文を參照すべし。　（凡三時）

第二十一　烈士喜劍

傳説的史談によりて義を重んじたる士風を知らしむ

（注意）

一、鶴梁文抄卷ノ六烈士喜劍碑の文を參照すべし。

一、赤穗義士の復仇談につきては説明すべし。

六　一、大石義雄の深慮ありし事をよく〳〵うかゞはしむべし

第二十二　主婦の務　（凡三時）

主婦の日常の心得を知らしむ

（注意）

一、此の文は作者が兒童に命令したるものとて取扱はるべし。

七　一、女工にはよく〳〵内容を補説すべし。

第二十三　孔子と孟子　（凡三時）

我が國の文明にも大恩ある孔子孟子の二聖賢を知らしめて支那歴史の一端を窺はしむ

（注意）

一、支那地圖によりて魯齊などの位置を明確に知らしむべし。

一、論語及び孟子の序文史記等を參考すべし。

八　一、難語句多ければその心して授くべし。

第二十四　大國民の品格　（凡四時）

綴り方　第三週の成績の批正　實際に差出さしむ

綴り方　自由選題

書き方　書き方手本下二十五二十六頁

我が國民は大國民たる品格を備ふべきことを知らしむ

（注意）

一、內容を十分具体化して理解せしむべし。

第二十五　自治の精神　（凡三時）

市町村制度を知らしめて法制經濟に關する思想を養ふ

（注意）

一、兒童の鄉土に求めて理解せしむべし。

第二十六　帝國議會　（凡三時）

帝國議會の組織任務權能等を知らしめて法制經濟上の知識を與ふ

（注意）

一、十分に內容を補說し理解せしむべし。

第二十七　軍人に賜はりたる勅諭　（凡六時）

軍人に賜はりたる勅諭の御趣意を授けて一般國民の心得を知らしむ

（注意）

一、本課は明治十五年一月四日軍人に下し給ひたる勅諭の大意を述べたるものなれば同勅諭と對照して適當に敷衍し、十分に聖旨のある所を奉戴せしめざるべからず。

一、難語句多ければ十分に意義を明にして敎授すべし。

第二十八　國民の至情　（凡三時）

明治天皇崩御の際に於ける忠烈なる國民至情の發露について感せしむ

綴り方　第六週の成績の批正

書ぎ方　書き方手本下二十七、二十八頁

綴り方　自由選題

綴り方　第十週の成績の批正

（注意）

一、天皇の宏大なる御德を仰慕し奉る臣子の心情を感知せしむる事に努むべし。

一、內容につきては十分補說すべし。

算術科教授細目

算術科教授細目取扱上の注意

一、本細目は總て國定教科書に準據して編纂したれば之が使用にあたつては必ず同書を參照するを要す。

二、教材は教科書の順を追うて盡く之を掲げたり。されど兒童の能力と教授時數の多少により適宜略するも妨げなし。其の必要ある場合には各學年卷頭の注意を參照すべし。

三、總て教科書の材料は學校生活をなせる兒童を對象として編纂せられたるが故に應用問題等も其の方面より材料をとりたるもの多し。この點の取扱は最も注意を要するところたり。

尋常科第三學年

一、本學年に於ては一萬未滿の數に就きて筆算の加減乘除を授け之に習熟せしむるを以て主眼とす。

二、筆算に入る前に尋二迄の材料たる次の事項は全兒童に是非共徹底せしめざるべからず。

1. 二基數の和及其の逆たる減法
2. 百以内に於ける二位數の和及其の逆たる減法
3. 乘法九々及其の逆

三、第一學期の加法及減法は兒童の程度により、教科書の順によらず直に模式的の材料即ち「加法其の二」「減法其の二」等より初め、扱ひを簡略にするも差支なし。

四、第二學期の乘法も同樣なり。

第一學期

週	教授事項		備考
一	前學年の復習 1. 二基數の和及其の逆たる減法 2. 百以内に於ける二位數の加法及其の逆たる減法 3. 乘法九々及其の逆	(4)	之等は次に來るべき總ての教材の基礎となるものなれば充分徹底せしむるを要す
二	唱へ方書方 1. 千以内の數の唱へ方書方(復習) 2. 一萬未滿の數の唱へ方書方	(4)	1. 唱へ方の教授は即ち數の成立ち、言ひ換ふれば數系統の教授にして算術教授上極て重要なる地位にあるものなり。先づ三位の數につき其の成立ちを具體的に了解せしめ、然る後四位の數に及ぶべし。 2. 書方教授の際には數字の位置價値を充分悟らしむべし。
三	暗算其の一 1. 千位數の加減 2. 千百位の數と百位の數との加減にて、千位に關係を及ぼさゞるもの 3. 百位又は千百位の數と百位の數との加減にて千位に影響を及ぼすもの 4. 百位數に基數を乘じて十進するもの 5. 千位又は千百位の數を基數にて割り百位の數を得るもの 6. 二位又は三位の數を十倍又は百倍するもの 7. 千位數、千百位數、千百十位數を十分又は百分するもの	(6)	1. この材料は一萬未滿の數の成立を理解せしむるを以て目的とす。 2. 十倍、百倍、十分、百分することは後の形式算にて援はれず、此處にて十分徹底せしめ置くを必要とす。
四	加法其の一	(4)	
五	1. 何れの桁も繰上らぬ場合の加法 2. 名數の加法 3. 圓、錢、厘の單位關係(二年の材料)	(4)	1. 以下二十五頁に至る間の筆算は本學期の主眼とするところなり。 2. 筆算の簡便なることを知らしむべし。 3. 數字を縱横整然と並ぶること、横線を正しく引くことを注意すべし。
六	加法其の二 1. 一桁繰上る場合の加法 2. 丈・尺・寸・分の單位關係(二年の材料)	(4)	1. 加法形式の模式的のものなればよく理解せしむべし。 2. 繰上がる場合には記憶点を打たざるを本體とすべし。 3. 丈尺寸の教授には尺度を準備するを要す。
七八	加法其の三 1. 二桁以上繰上る場合の加法 2. 石・斗・升・合の單位關係	(8)	1. 桁目の單位及單位關係は桁を準備して具体的に知らしむべし。 一斗　一升　五合　一合
九	應用問題其の一 1. 筆算の加法練習 2. 應用問題解法練習	(4)	1. 教科書の例により、兒童の身邊に近き事實を材料として問題を構成し、之を課すことに努むべし。 2. 式の意味を了解せしむべし。
一〇	減法其の一 1. 各桁別々に引き得る場合の減法 2. 目方の單位 貫・匁及其の間の關係	(4)	1. 數字の並べ方に關する注意は加法と同樣なり。 2. 目方の單位の教授には種々の衡器を準備し適宜使用せしめて物の目方を實測せしむること必要なり。
一一	減法其の二 1. 一桁引き得ぬものある場合の減法	(4)	1. 減法の模式的のものなれば充分練習せしむべし。 2. 上位より繰上る印を附せざる樣注意すべし。
一二	減法其の三 1. 二桁以上引き得ぬ場合の減法	(5)	1. 借りたるものを忘却せざるやう注意すべし。

一三	減法其の四	(5)	1. 或桁より1を借り來らんとするに其の桁に0ある場合の減法 2. 減法中最も困難なるものなり。 2. 百位より直に一位に借り來るか知き誤りをなす兒童多きが故に注意すべし。
	應用問題其の二	(4)	1. 筆算の減法練習 1. 成可く兒童の生活に近き問題を構成して與ふべし。
一四	減法應用問題解法練習	(8)	2. 減法應用問題解法練習 1. 次第に迅速に結果を求めしむべし。
	復習其の一		
一五	1. 加法減法の練習		
一六	2. 加減の雜れる練習		
一七	應用問題其の三	(4)	1. 式を立て後に計算する習慣を作るべし 2. 總合式を立つることを練習すべし。
	1. 加法應用問題練習		
	2. 減法應用問題練習		
	3. 加減應用問題練習		

第二學期

一	暗算其の二	(5)	1. 乘法九々は掛算の基礎なれば充分徹底するまで練習するを要す。 2. 零の乘法九々は新教材なれば其意味を了解せしめて後練習すべし。 3. 乘法の意味を明かにすべし。
	1. 基數と基數との乘法		
	2. 基數と零との乘法		
	3. 練習		
二	乘法其の一	(3)	1. 三十三頁より三十八頁までは法一位の乘法にして、之を三つの場合に區分して授けんとするものなり。
	1. 基數を乘じて各桁繰上らぬ場合の形式		

	2. 練習		2. 乘法は同數累加の簡便法にして、乘算形式は又其の機械的便法なることを知らしむべし。
三	乘法其の二	(4)	1. 一桁繰上る場合 3. 數字の排列、符號の記し方、位の取扱等をよく注意すべし。
	1. 一桁繰上る場合		
	2. ダースの概念		
	3. 名數の乘法		4. 理法の一通りを説明すべし。
四	乘法其の三	(4)	1. 一位乘法の機式的のものなりよく練習せしむるを要す。 2. 成る可く上位に繰上る即を用ひざるやうすべし。 3. 「ダース」を用ひて其の數量を表はす物品の例を知らしむべし。
	1. 二桁以上繰上る場合		
	2. 時の單位及單位關係		
	一週は七日なること(復習)		
	一日は二十四時なること		
	一時は六十分なること		
五	應用問題其の四	(2)	1. 乘法を適用すべき數量的事實を採らしむべし。
	1. 乘法に關する應用問題解法練習		
	2. 乘法練習		
六	乘法其の四	(4)	1. 乘法の機式的ものなればよく練習せしむべし。 2. 桁を加へて整然と運算すべし。 3. 二位數を乘する場合は必ず二つの部分積を得ることを知らしむべし。 4. 各部分積はそれに對應すべき乘數の直下より書き初むることを知らしむべし。
	1. 缺位なき二位數の乘法		
	2. 練習		
	乘法其の五		

七	1. 缺位なき三位數を掛くる場合の乘法 2. 里程の單位及各單位間の關係 一間は六尺 一町は六十間 一里は三十六町 3. 練習	(3)	1. 丈、尺、寸分は一般に長さを計るに用ひ之は道程を計るに用ふることを知らしむべし。 2. 各單位の觀念は兒童の熟知せる目標を假りて知らしむべし。目測、歩測、實測等によることを得ば更に妙なり。
八	乘法其の六 1. 缺位ある二位數三位數を掛くる場合の乘法 2. 練習	(3)	1. 相當練習を經たる後は簡便法により、0を掛けたる部分積を記すことを省略するも差支なし。
九	乘法其の七 1. 被乘數が基數なる場合の乘法 2. 練習	(3)	1. 一種の簡便法なり。 2. 二位數へ掛くる場合に此の方法を混用せざるやう注意すべし。
一〇	應用問題其の五 1. 乘法應用問題解法練習 2. 乘法練習	(4)	1. 兒童の實際生活に近接せる材料より應用問題を構成して練習せしむべし。
一一	復習其の二 1. 加法、減法の復習 2. 乘法の復習 3. 名數乘法の復習 4. 時の單位及び里程の單位の復習 應用問題其の六	(5)	
一二	1. 加減應用問題練習 2. 加法乘法應用問題練習 3. 減法乘法應用問題練習 4. 乘法應用問題練習	(3)	1. 筆算除法の豫備なれば充分徹底せしむるを要す。 2. 例 8÷4　80÷4　800÷4　8000÷4 等の材料も併せて復習すべし。
	暗算其の三 1. 法も商も共に基數なる場合の除法(復習) 2. 零にて割ること		1. 本學期中に基數の割算形式を授くることとし之を三つの場合に分つ。 2. 時々檢算を行はしむべし。
一三	除法其の一 1. 基數にて割る仕方の中、各桁割り切るゝ場合の除法 2. 練習 3. 名數の除法(等分)	(3)	1. 餘りは常に法よりも小さなることに注意せしむべし。 2. 餘りある檢算の仕方をよく理解せしむべし。 3. 餘りは商の後に續けて唱ふべきことを注意すべし。
一四	除法其の二 1. 一桁だけ割切り得ぬ場合の除法 2. 練習	(5)	
一五	除法其の三 1. 二桁以上割り切り得ぬ場合の除法 2. 練習 3. 暗算の除法練習	(5)	1. 包含除、等分除の意味をよく了解せしめ、前者の答は不名數、後者の答は名數なることに注意せしむべし。
一六	4. 名數の除法 包含並に等分の場合		

	應用問題其の七 1. 除法應用問題解方練習	(2)	

第三學期

一	暗算其の四 1. 二位數三位數に基數を掛くること 2. 右の逆たる割算	(4)	1. 法二位の除法を授くる準備として揭げられたる材料なり。 2. 或數に基數を掛けたるものは其の數よりも大にして、其の數の最後に零を添へたる數即ち其の數の十倍よりは小なること注意すべし。 3. 或數を基數にて割りたる商は其の數の位數より一位だけ少き數又は其の數と位數の相等しき數なることを注意すべし。
二	除法其の四 1. 二位數にて割り商が基數なる場合の除法 2. 名數の割算	(5)	1. 商の位數を決定することは二位數除法の最大要訣なれば充分了解せしむべし 2. 數字の並べ方、線の引方等に充分注意せしむべし。
三	除法其の五 1. 法二位にして商は二位以上の數なる場合の除法、但し商に零ある場合を除く 2. 名數の除法(算法を實際にあてはむること)	(5)	1. 法が二位數にして商に零ある場合の除法 2. 名數の除法
四	除法其の六 1. 法が二位數にして商に零ある場合の除法 2. 名數の除法	(5)	1. 法が二位數にして商に零ある場合の除法 2. 名數の除法
五	十進諸等數を割る場合に於て實が法よりも小なる時は零を以て補び參圓は三〇〇錢等として計算すべきこと。 名數を名數にて割るには實及法を同じ單位にて表はすべき事。	(5)	1. 單位を變へて一つの量を表はすことは名數計算の場合極て重要なるものなり
六	除法其の七 1. 法が三位なる場合の除法 商が基數なる場合 商が二位數なる場合	(5)	
七	應用問題其の八 1. 除法に關する應用問題練習	(4)	
八	復習其の三 1. 加法、減法、乘法、除法 2. 諸等數	(6)	本學年教材の總復習なり。
九	樹目　目方　長さ　里程　時間 應用問題其の九	(8)	1. 教科書の材料は次て學校生活を送る兒童に適するやう選ばれたるが故に其の他の兒童に對しては不向のもの少からず、其の土地、其の工場、其の職業により大に取捨の必要あること勿論なり。
一〇	1. 加減乘除に關せる應用問題解法練習		
一一			

尋常科第四學年

一、本學年に於ては一億未滿の數につきて筆算の加減乘除を補習完成し、諸等數及小數の計算を授けて之に習熟せしむるを主眼とす。

二、第一學期の加減乘除は兒童の如何によりて大に教授時數を減ずることを得べし。
三、四則に關する諸法則は其の扱ひを省略して差支なし。

第一學期

週	教授事項	備考
一	前學年の復習 1. 加減除乘の算法 2. 名數の加減乘除 3. 練習 (5)	1. 前學年の大要を纏めて復習するものとす。
二	唱へ方書方其の一 1. 一億未滿の數の成立ち 2. 同じく唱方　書方　讀方 (4)	1. 唱へ方は單なる唱へ方にあらずして數の成立を意味するものなれば其の点をよく了解せしむるに努むべし。 2. 數字の位置價値を充分徹底せしむべし
三	暗算其の一 1. 萬單位の數の加減乘除 2. 何萬何千といふ數に何萬何千といふ數を加ふるもの及びその逆たる減法 (5)	1. 本教材は數の成立を了解せしむるを以て目的とす。 2. 30000＋20000は次の如く考へしめ二基等の和を求むる算法に歸せしむべし。他も之に準ず。3萬＋2萬＝5萬
四	3. 何千といふ數に基數を乘ずるもの及其の逆たる減法 4. 四位の數を十倍、百倍、千倍すること及び其の逆たる割算 加法其の一 1. 一萬未滿の數の加法復習 (4)	3. 十倍、百倍、千倍すること及び十分、百分、千分することは後の形式算に出で來らざるを以てこゝにて充分了解せしむべし。 1. 大數の扱ひは周到綿密に計算せざれば誤を生じ易し一點の誤りは勞力を全部水泡に歸せしむるものなれば其の心して

週	教授事項	備考
五	2. 一萬以上の數の加法 3. 名數の加法	て運算せしめ以て周到綿密なる習慣を養成すべし。 2. 金高、桝目、目方等の各單位の關係を復習すべし。 3. 數字、數字の排列、横線等は更に一層正しく書かしむべし。
六	減法其の一 1. 一萬未滿の數の減法練習 2. 一萬以上の數の減法 3. 名數の減法 (3)	
七	應用問題其の一 1. 加減に關する應用問題解法練習 復習其の一 1. 不名數の加減 2. 名數の加減 } 練習 3. 括弧の用法 (4)	1. 簡單なるものは成可く暗算を利用せしむべし。
八	4. 式の意義 5. 幾つかの數を加減する時、其の加減の順序を如何樣に變ふるとも其の結果は變らぬこと 6. 或數に幾つかの數を次々に加ふるも其の和を加ふるも結果は變らぬこと 7. 或數より幾つかの數を次々に引くも其の和を引くも結果は變らぬこと (4)	1. 加減の練習をなすと共に式の意義、小括弧の用法を授け、加減に關する方則の大要を知らしむるものとす。 2. 方則は歸納的に發見せしむべし。

乘法其の一

1. 一萬未滿の數の乘法練習
2. 一萬以上の數の乘法
3. 乘數に零を有する場合の省略法
4. 簡易なるもの丶暗算
5. 被乘數と乘數とを取替ふるも其の結果は變らぬものなること、隨つて、乘數の桁數が被乘數の桁數よりも多き時は被乘數と乘數とを取替へて計算を行ふも可なること
6. 面積の單位及單位關係

坪(歩)　畝

7. 時間の單位(一分は六十秒なること)

(6)

除法其の一

1. 短除法の新形式
2. 長除法の場合に於て商に零あるせの丶省略法
3. 商の桁數の求め方
4. 除法の兩意義……等分と包含
5. 名數の除法

應用問題其の二

1. 乘除に關する應用問題解法練習

(10)　(4)　(8)

復習其の二

1. 面積の單位を授くるには疊、兒童の居室、兒童の熟知せる廊の廣さ等より出發すべし。

1. 商の位數(桁數)を定むる事は除法に於て極て重要なることなれ懇切に指導すべし。
2. 除法の兩意義は容易に徹底せざるものなるか故に此の後とも時々吟味するを要す。

1. 貨物の單位量の價を知りて其の或數量の價を算出すること、乘法應用問題中の主要なるものなるか故に十分練習せしむべし。

一四

1. 加減乘除の練習
2. 掛算又は乘法と稱すること
3. 被乘數と乘數とを取替んとする時、被乘數が名數なる場合の扱ひ
4. 割算は又除法と稱すること
5. 長除法の一形式
6. 幾つかの數を次々に掛くる時、又は幾つかの數にて次々に割る時其の掛くる又は割る順序を變ふるとも結果は變らぬこと、隨つて幾つかの數にて乘除する時其乘除の順序を如何樣に替へても結果は變らぬこと
7. 乘除を先にし加減を後にすること
8. 或數に幾つかの數を次々に掛くるも其の積を掛くるも結果は變らぬこと、及び或數を幾つかの數にて次々に割るも其の積にて割るも結果は變らぬこと

一五

9. 面積(地積)の單位

町　段

10 諸等數の計算に關する準備問題

一六

1. 加減乘除に關する應用問題其の三

一七

(8)

1. 乘除に關する一般方則なこゝにて授けんとするものなり。
2. 乘除を先にすることは兒童にとりては異常なる注意を必要とするが知し。充分注意せしむるべし。
3. 地積の(町)と里程の(町)とを混同せざるやう注意せしむべし。

一	金高		
	1. 金高の單位及單位關係	(3)	1 同一の金高を單位を變へて表はすことを充分練習せしむべし。長さ、目方、枡目等十進諸等數の場合皆然り。
	2. 通法及命法		2. 割算に於て實法共に名數ならば先づ双方を同單位の單名數に直して計算すべきことを注意すべし。
	3. 金高に關する計算練習		
	4. 貨幣に就きて		
	貨幣の必要の大要		
	貨幣の種類及紙幣		
	5. 諸等數の意義		
二	長さ		
	1. 長さの單位及單位關係	(3)	1. 物指を用ひて實測せしむるをよしとす
	2. 通法及命法		
	3. 長さに關する計算練習		
	桝目		
	1. 桝目の單位及單位關係	(3)	1. 單位の中、勺は此處にて新しく教授せらるゝものなり。
	2. 桝の種類、構造		2. 教具として諸種の桝を準備すべし。
	3. 桝の使用法		
	4. 通法及命法		
	5. 桝目に關する計算練習		
三	目方		
	1. 目方の單位及單位關係	(3)	1. 体積と目方との差異を明確にすべし。
	2. 一斤は百六十匁なること及斤の用ひらるる範圍		

	3. 日常用ひらる衡器及其の使用法		
	4. 通法及命法		
	5. 目方に關する計算練習		
四	里程		
	1. 里程の單位及單位關係	(14)	1. 里程に關する諸等數の取扱は以下の諸等數の模式的のものなれば充分徹底せしむべし。
	2. 通法		2. 各單位の關係はよく暗記せしむべく、距離の觀念は實地につきて之を與ふべし。
	3. 命法		3. 十進諸等數と非十進諸等數との區別を明かにし、その計算上に及ぼす影響を知らしむべし。
	4. 加法		
五	5. 減法		
六	6. 乘法		4. 算法は範例の形によらしめ、各單位の間隔は成可くあけて判然記載せしむべし。
七	7. 除法		5. 命法の教授と聯絡して諸等數の心要なる所以を知らしむべし。
	應用問題其の四		
	1. 里程に關する應用問題練習		
	2. 步測の方法		
	3. 平均、半分の語の意義		
八	地積		
	1. 地積の單位及各單位間の關係	(7)	1. 十進の部と非十進の部との兩方面を含む諸等數なることをよく了解せしむべし。
	2. 通法及命法		
	3. 加減乘除		
九	4. 矩形、縱横、長さ、幅、間口、奥行等の語の意義		
	5. 矩形の面積の求め方		

一〇	1. 地積に關する應用問題練習	(3)	1. 居宅、工場等の面積を計算せしむべし
	時間		
一一	1. 時間の單位及各單位間の關係	(3)	1. ローマ數字も亦數字の一種なることを授け其の用途を知らしむべし。
	2. 時計の見方（附ローマ數字）		2. 曆に於ける大小を明確にすべし。
	3. 通法及命法		3. 午前、午後、正午、零時等の意義を知らしむべし。
一二	4. 加減乘除	(2)	
	5. 曆		
	應用問題難其の五		
一三	1. 時間に關する應用問題練習	(8)	
	復習其の三		
一四	1. 整數の加減乘除	(8)	
	2. 諸等數に關する計算		
一五	應用問題其の七		
	1. 整數に關する應用問題	(8)	
	2. 諸等數に關する應用問題		
一六	3. 哩、段別の意義	(3)	

第三學期

一	唱へ方書方其ノ二		1 此處にては減數の幾分の幾つの意義だけを授くれば足れり。
	1. 分數の意義	(1)	1 整數の系列より導き、分數と連絡して小數の概念を與ふべし。
	2. 分數の唱へ方書方		2 實物の助けをかりて了解を助くべし。
	唱へ方書方其の三		3 小數も亦整數と關係連絡せる數系列なることを理解せしめ、小數の知識によりて人爲的に一以下の微細なるものまでも數へ得ることを知らしむべし。
	1. 小數の唱へ方（成立ち）		
	2. 整數、小數、帶小數の意		
	3. 小數の書方	(2)	1 主眼は小數の成立を了解せしむるにあり。
	暗算其の二		
	1. 小數の簡短なる加減乘除		1 小數點が縱に揃ふやうに書きて計算せしむべし。
	加法其の二　減法其の二		2 和、又は差に小數點を打つことを忘れざるやうに注意すべし。
	1. 帶小數のみの加法	(3)	3 整數を取入れたる問題をも課すべし。
	2. 小數のみの加法		4 被減數が減數に對して空位ある場合は零を以て補はしむべし。
	3. 帶小數より小帶數を引く場合		
	4. 小數より小數を引く場合		
	5. 四捨五入		
	應用問題其の八		
	1. 小數及帶小數の如く加減に關する應用問題	(2)	
	2. 224.6㎞の意義		
	乘法其の二	(4)	1 乘法に於ては加減法の如く同じ位を上下に揃ふるの必要なく、右端を揃へて書くべきことを注意すべし。
	1. 乘數が整數なる場合		2 結果の小數點以上の桁數は、乘數、被乘數の各の小數點以上の桁數の和に等しきことを知らしむべし。
	2. 乘數が小數又は帶小數なる場合		
	除法其の二	(4)	

	1. 實が小數又は帶小數にして法が整數なる場合の除法		1 除りの讀み方を誤らざる樣注意せしむべし。 2 切上げ切捨てなこの所にて授くべし。 3 時々檢算を行はしむべし。
六	應用問題其の九 1. 小數及帶小數の乘除に關する應用問題練習	(4)	1 平均を求めて割り切れざる場合の處置を授くべし。 2 ㎡を三箇八分と箇を付けて讀むことあるを注意せしむべし。
七	十進諸等數 1. 十進諸等數は直に其の最低單位を以て表はし得ること(復習) 2. 十進諸等數は小數又は帶小數を用ひて、任意の單位の單名として表はし得ること	(3)	1 この練習は小數の意義を徹底せしむるに極て重要なるものなり、充分練習すべし。
八	復習其の四 1. 整數小數の加減乘除 2. 式が小數、帶小數を含むとも整數の場合と同一の算法によるべきこと	(8)	
九	3. 名數の書方 4. 諸等數加減乘除		
一〇	應用問題其の十 1. 整數、小數、諸等數に關する應用問題練習 2. 附として次の事項 冬至、夏至、春分、秋分 メートル 一哩は約〇、四里	(8)	

尋常科第五學年

一、本學年に於ては兆位迄の數の唱へ方書方を授け、整數、小數、諸等數の計算、及其の應用問題の解方に熟達せしむるを以て主眼とす。
二、小數の計算は相當に力を致すを要す。
三、第二學期の　面積其の二　は省略するも差支なし。
四、第三學期の圓柱及球の体積の求め方は之を省略するも差支なし。

第一學期

週	教授事項		備考
一	唱へ方及書方 1. 兆位までの數の唱へ方(數の成立) 2. 同上記數法 3. 練習	(4)	1 數の成立に就いては十進の上に萬進する妙味を知らしむべし。
二	加法 1. 加法の意義 附　和、合計、總計等の語 2. 整數、小數、帶小數の加法 3. 名數の加法	(3)	1 以下形式算は本學年を以て完成せんとするものなり。 2 簡單なるものは可成暗算によらしむべし。 3 同樣の異單位數は同一單位に化して後計算せしむべし。

	4. 漢字を用ひて數を縦書にする記法		
	減法		
三	1. 減法の意義	(3)	1 實際に遠き問題は之を改作するか若しくは全然他の問題を選んで課すべし。
	2. 整數、小數、帶小數の減法	(3)	
	3. 括弧の用法	(3)	1 加減乘の雜れる式に於ては乘法は加減に先ちて行ふべきものなることを復習すべし。
	應用問題其の一		
四	1. 加法應用問題解方練習	(3)	
	乘法其の一		
	1. 整數、小數、帶小數の乘數	(3)	
	2. 乘數の右端にいくつかの零ある場合の簡便法	(3)	
	3. 乘法の意義	(3)	
五	除法其の一		
	1. 除法の意義	(3)	1 除法の二つの意義を復習すべし。
	2. 整數除法の練習	(3)	2 短除法の教授は三年より引續き行ひ來れるところにして今改めて教授するの要なし。新教科書には無論省かるべき部分なり。
	3. 小數を整數にて除することの練習	(3)	
	4. 强、弱の意義	(3)	
	乘法其の二		
六	1. 小數を乘ずること(復習)	(3)	1 小數を乘ずることも亦四年の三學期に授けたることなり、此處にては方法、意義を復習して練習せしむべし。
	2. 貨物の單位量の代金に單位數を乘ずれば其の單位數が整數小數帶小數の如何に拘らず常に其の代金を得べきこと	(4)	
	除法其の二		

	1. 整數を小數にて割ること		
七	2. 小數を小數にて割ること		
	3. 帶小數を小數にて割ること		
	應用問題其の二		
八	1. 四則に關する應用問題練習	(4)	1 除數が小數なるものはこれを整數に化して除法を行ふべきことを知らしむべし。
	長さ		
	1. 鯨尺、曲尺との額係並に用途	(4)	1 教具として曲尺、鯨尺を準備し、兩者の關係を直觀的に知らしむべし。
九	2. 鯨尺を曲尺に、曲尺を鯨尺に換ふること		2 圓周率は先づ實測によりて大体を見出さしむべし。
	3. 圓周率、周圍、直徑、半徑		3 三、一四は之を暗記せしむべし。
	面積其の一		
	1. 面積の單位	(4)	1 面積の意義、及び其の單位に於て充分了解せしむべし。
一〇	2. 平方尺、平方寸の意義		2 面積の大さは直接單位を以て量ることなく、間接的に計算によりて算出することをよく了解せしむべし。
	3. 矩形、正方形の意義		3 單位關係に於て一平方尺は百平方寸なることを理解せしむべし。
	4. 矩形正方形の面積の求め方		4 八寸平方と八平方寸との差を辨へしむべし。
	体積其の一		
	1. 体積の單位	(4)	1 面積の注意參照
	2. 立方尺、立方寸の意義		
一一	3. 直方體、立方体の意義		
	4. 直方體、立方體の體積の求め方		
	5. 二乘、三乘の意義		

	6. 內法，容積の意義		1 纔て實物につきて說明し內法、容量等兒童をして計算せしむべし。
	桝目		
一二	1. 桝目の單位關係	(4)	
	2. 桝の種類及使用法 } 復習		
	3. 一升桝の內法寸法		
	4. 桝目に關する計算練習		
	目方		
一三	1. 目方の單位及單位關係 } 復習	(4)	1 單位容量の實物の重さを記憶し置くことは便利多し。次は各一升の概準目方なり。 水……四百八十匁 玄米……三百八十匁—四百匁 大麥……三百二十匁—三百匁 醬油……四百八十五匁 醬油……五百匁
	2. 衡器の種類及用法		
	3. 水一升の目方		
	4. 目方に關する計算		
	貨幣		
一四	1. 貨幣の單位及單位關係	(4)	
一五	2. 貨幣の種類		
一六	3. 貨幣に關する計算		

第二學期

	里程		
一	1. 通法及命法	(16)	1 哩及哩の用ひらるゝ方面を授くべし。 2 小數にて表はされたる單名數を諸等數に直すことは全く新しき教材なれば注意して援ふべし。 3 海里及海里の用ひらるゝ方面を授くべし。
	2. 加法及減法		
	3. 乘法及除法		
	應用問題其の三		
五	1. 里程に關する應用問題	(2)	4 加減に於ては各單位間を離して正しく並べ機線等も正しく引かしむべし。 5 音が空水中を傳はる速さにつきて說くべし。 6 光の進む速さにつきて說くべし。 7 浬は海里のことなることを注意すべし
	附 元標の意義		
	地積		
六	1. 地積の單位及單位關係（復習）	(12)	1 十進の部と非十進の部とあることに注意せしむべし。 2 町段畝は普通の十進諸等數の如く續けて記すべきことを注意せしむべし。
	2. 通法及命法		
	3. 加法及減法		
	4. 乘法及除法		
	面積其の二		
九	1. 三角形の面積の求め方	(8)	1 矩形、正方形の面積の求め方、長さの單位と面積の單位との關係につき復習すべし。 2 國土の如き大なる面積に於ては平方哩平方里等の單位を用ふることを敎ふべし。 3 四方里と四里平方との別に注意せしむべし。 4 一平方里は約六平方哩なることを授くべし。
一〇	2. 四角形五角形等の面積の求め方		
	3. 圓の面積の求め方		
	應用問題其の四		
一一	1. 地積及面積に關する應用問題練習		
	時間		
	1. 通法及命法	(2)	1 時計の見方を問ひ試み、一秒の長さにつきて具體的の觀念を得しむべし。 2 一年の長さにつきて知らしむべし。

	2. 加法及減法		
	3. 乘法及除法		
一五	應用問題其の五		
	1. 時間に關する應用問題練習		
一六	應用問題其の六		
	1. 時間、里程、面積に關する應用問題練習	(3)	1 立春、八十八夜、二百十日等につきて知らしむべし。 2 平年閏年につきて知らしむべし。

第三學期

一	メートル		
	1. メートル法の意義		1 我國にて丈尺寸と唱ふる長さの單位の外「メートル」と唱ふる單位ありて軍事上、學術上に多く用ひらるることを知らしむべし。 2 一メートルの長さは實物によりて其の觀念を明瞭ならしめ且其の三尺三寸なることを記憶せしむべし。
	2. 基本單位と補助單位及單位間の關係		
	3. メートル尺を曲尺に換算すること		3 メートル尺を準備するを可とす。 4 問題(8)により一町は九町十間に等しきことを暗記せしむべし。
	8. 應用問題	(8)	5 換算問題は其の基本的なるものを課し一部分を省略するも差支なし。 6 「米」をメートルと讀むことを注意すべし。
三	面積其の三		
	1. メートル法に於ける面積の單位		1 平方寸、平方尺等の語義を復習し然る後平方米等の意義に及ぶべし。
	2. 各單位間の關係		
	3. 正方形、矩形、平行四邊形、梯形、圓、多角形の面積の求め方	(4)	2 平行四邊形以下の面積の求め方は時宜により之を授けざるも差支なし。

四	體積其の二		
	1. メートル法に於ける体積の單位	(4)	1 メートル法にては石斗升合に相當する枡目をリットルにて表はすことを說明すべし。 2 「立」をリットルと讀むことを注意すべし。 3 一立は凡五合五勺にあたることを記憶せしむべし。 4 一立の枡を準備すべし。
	2. 各單位間の關係		
	3. 立方體、直方體、角柱の体積の求め方		
	4. 圓柱、球の體程の求め方		1 圓柱、球の體積は之を省略するも差支なし。
五	リットル		
	1. メートル法に於ける桝目の單位	(4)	1 四貫目は十五瓩に等しきこと四匁は十五瓦に等しきことを授けて暗記せしむべし。 2 「瓦」をグラム、瓩をキログラムと讀むことを授くべし。 3 瓩を單にキロと稱することも注意すべし。 4 瓦、瓩を、匁、貫に直すには四を掛け十五にて割ること、貫匁を瓩、瓦に直すには四にて割り十五を掛くることを授くべし。 5 瓦秤を準備すべし。
	2. リットル升合との關係		
	4. 應用問題		
六	グラム		
	1. メートル法に於ける目方の單位	(4)	
	2. 貫匁とグラム換算すること		
	3. グラムを貫、匁、斤に換算すること		
	4. 應用問題		
七	應用問題其の七		
	1. 米に關する應用問題	(4)	
八	(長さ及面積) 外國廣量衡		
	1. ヤード、フート、インチ及其等の間の單位關係	(8)	1 之等の單位を表はす文字記號等を授くべし。

	2. ポンド、オンス、トン及其等の間の單位關係 3. 外國度量を我國度量衡に算換すること		2之等は英國及米國の單位なれ共、現今廣く我國に行はるゝことを注意し、其の使用せらるゝ方面を授くべし。 3噸は英、米相同じからず、我國にては英噸を用ゆることを注意すべし。
一〇	應用問題其の八 1. 米に度量衡に關する應用問題 2. ヤード、ポンド法に關する應用問題 3. 面積、體積に關する應用問題 4. ノット及之に關する問題 5. 容積の噸及其の問題	(8)	1ノットの意義を明かにすべし。 2目方の噸と、容積の噸とを明瞭に區別せしむべし。

尋常科第六學年

一、本學年に於ては分數の計算、歩合算の簡易なるものを授け既授の教材全部の統括的復習をなすを以て主眼とす。

二、分數は場合によつては大々的に省略し、尋四の復習となす位の程度に止めて可なり。

三、比に關する問題も全部省略して可なり。

第一學期

週	教授事項		備考
一	倍數約數	(4)	
	1. 倍數の意義及其の求め方 2. 公倍數の意義及其の求め方 3. 奇數偶數 4. 約數の意義及約數の求め方 5. 公約數の意義及其の求め方	(4)	1最小公倍數及最大公約數の一般的求め方は授くるに及ばず、簡短なるものを目の子にて求めしむべし。
	分數意義及書方 1. 分數の意義 2. 分數の書方 3. 分母分子の名稱	(2)	1分數の意義は直觀的に知らしむべし。 2直觀方便物は單に直線のみによらずして平面立體なも用ふべし。 3分數の記法は横線を記し次に分母、分子といふ順にすることを注意すべし。
三	分數の簡易なる計算 1. 寄算 2. 引算 3. 掛算 4. 割算	(2)	1分數の意義を明瞭に會得せしむること を主眼として扱ふべし。 2總て暗算によりて解決せしむべきものとす。
四	分數の種類 1. 分數の種類 眞分數、假分數、帶分數 2. 分數の種類の見分け方 分數の形を變ふること 1. 分數を約すること 2. 整數を分數の形に直すこと	(4)	1分數は分母にて分子を割りたるものなりといふ、第二の意義を授け決局第一の意義と同樣なることを直觀的に了解せしむべし。 2分數の分母子を同數にて割り若くは分

3. 帶分數を假分數に直すこと
4. 假分數を帶分數又は整數に直すこと

五

分數加法其の一
1. 眞分數のみの場合
2. 整數と帶分數のみの場合
3. 帶分數と眞分數との場合
4. 帶分數のみの場合
5. 假分數のみの場合
分數の減法其の一
1. 眞分數より引く場合
2. 帶分數より引く場合(整數部に關係なきもの)
3. 整數より引く場合
4. 帶分數より引く場合(整數部に關係あるもの)
5. 假分數ある場合

六

通分
1. 通分の意義
2. 通分の計算法
3. 異分母分數の大小を定むること
分數の加法其の二

七

分數の減法其の二

(2)

1 計算の結果假分數を得たる場合には常に之を帶分數或は整數に直さしむべし

2 帶分數と帶分數若しくは其の他の分數とを加へ合す時は、之を假分數に直すことなく整數部と分數部とを別々に加へ然る後其の和なる分數と他の分數とを加へ合すべし。

3 假分數と帶分數又は整數とを加へ、最後に帶分數又は整數に直さしむべし。

(2)

1 加法により驗算をなさしむべし。

2 4の場合即ち整數部に關係あるものに於ては、整數部より一を借りて分數部に廻し分數部か假分數なる帶分數を作りて後引くべし。

3 5の場合に於て何れか一方に帶分數ある場合は他の數を帶分數に直して計算し、共に假分數の場合には其のまゝ計算せしむべし。

(2)

1 分數の分母子に同數を掛くるも其の値は變ざることを復習し然る後に簡單なる分數にて通分の意義方法を授くべし。

2 分母の異なる分數の取扱は簡單なるものに止むべし。

(2)

1 加減共分母は成可く簡短なるものに止むべし。就中三個以上の數を加へ若くは減ずる計算につきては各數の分母は一位數に止むべし。

母子に同數を掛くるも其の値の變らざることを了解せしむべし。

八

應用問題其の一
1. 加減に關する分數應用問題練習

(2)

1 $1\frac{1}{4}$ 里は四分の一里と讀ましむ。一里の四分の一なることを知らしむべし

2 $\frac{3}{4}$ 里は五里四分の三と讀ましめ、五里に一里の四分の三を足したるものなることを知らしむべし。

3 算式をつくりて後計算せしめ、計算は無名數にて行はしむべし。

(2)

分數の乘法其の一
1. 分數に整數を掛くること
イ、眞分數假分數に整數を掛くること
ロ、帶分數に整數を掛くること
ハ、加減乘の練習

1 帶分數の乘法に於ては整數部と分數部とへ別々に掛くることを本體とし、假分數に直し計算する仕方をも授くべし

九

(2)

分數の除法其の一
1. 分數を整數にて割ること
イ、分子が其の整數にて割り切れる場合
ロ、分子が其の整數にて割り切れぬ場合

1 分子が整數にて割切れる場合の算法は分子を丁度割り切れる樣に分子と分母に整數を掛けて後割ることの簡價法なることを注意すべし。

(4)

分數の乘法其の二
1. 眞分數に眞分數を掛くること
2. 帶分數に眞分數を掛くること
3. 整數に眞分數を掛くること
4. 名數の場合

1 或數の何分の何を求むるも或數の何倍を求むると同じく、乘法によることを知らしむ。

2 帶分數の整數部をそのまゝに置き掛算をなす兒童多くあり注意すべし。

一〇

(2)

應用問題其の二
1. 分數乘法に關する應用問題

一一

(2)

應用問題其の三

	1. 分數加減乘に關する應用問題	(4)	1 整數にて割れば一般に商は小となれども眞分數にて割れば却つて大となることに注意すべし。
	分數除法其の二		
一二	1. 眞分數を眞分數にて割ること		
	2. 整數を分數にて割ること		
	3. 帶分數を眞分數帶分數にて割ること		
	應用問題其の四		
	1. 分數除法應用問題解法練習	(2)	
一三	應用問題其の五		
	1. 分數四則應用問題	(4)	1 基本的のものは其の扱ひを丁寧にすべし。
一四	小數を分數に直すこと		
	1. 小數と分數との記數法比較	(3)	1 小數を分數に直したる結果は心ず最簡分數に直さしむべし。
	2. 小數を分數に直すこと		2 小數を分數に直したる場合に於て分子に2又は5の約數あれば約することを得、然らざれば約し得ぬ分數なることを注意すべし。
	3. 以上の結果を出來得る限り簡單にすること		
	分數を小數に直すこと		
一五	1. 分數第二の意義復習	(3)	1 循環小數の言葉は敢ふるに及ばず。
	2. 眞分數を小數に直すこと		
	3. 假分數を小數に直すこと		
	4. 帶分數を小數に直すこと		
	5. 循環小數の意義		
	應用問題其の六		
一六	1. 分數四則應用問題練習	( )	

第二學期

一	比		
	1. 比の意義	(2)	1 歩合の呼び方に用ふる分匁毛と小數の分厘毛とを混同せぬ樣注意すべし。
	2. 比の書方		
	3. 比の値の求め方	(8)	2 小數に書きたる歩合を分數に直さしむることは種々の場合の計算に極めて大切なれば其の心して教授すべし。
	比に關する問題其の一		
二	1. 正比例することの意義	(4)	
	2. 正比例問題の解き方		
三	3. 正比例問題解方練習		
	比に關する問題其の二		
四	1. 反比例することの意義	(2)	
	2. 反比例問題の解き方		
	3. 反比例問題解方練習		
	歩合意義及び呼方		
五	1. 歩合の意義	(6)	1 歩合を求むる公式は先づ簡單なる實際の問題につき充分に其の理法を理解せしめ然して後確實に暗記せしむべし。
	2. 歩合の呼方		
	3. 歩合の求め方		
	元高、歩合高、歩合の關係		
	1. 歩合高と元高とを知りて、歩合を求むること		

六	2. 元高と歩合を知りて歩合高を求むること 3. 歩合高と歩合を知りて元高を求むること 歩合の問題	(4)	2 他の二つは兒童をして第一の公式より導き出すことを考へしむべし。
七	1. 歩合に關する問題練習 損益の問題	(4)	1 歩合に用ふる百箇につき三十七箇、一圓につき十五錢等等の語義を説明すべし。
八	1. 損益、歩合の意義 2. 定價、正札、七掛、八掛等の意義 3. 損益に關する問題練習	(4)	1 定價、實價、買價、損益等は常に元高歩合、歩合高と比較して考へしむべし。 2 定價と實價とは常に一致するものとは限らざることを注意すべし。
	地租の問題		
九	1. 租税の意義及種類 2. 地租及其の税率 3. 地租に關する問題練習 所得税の問題	(4)	1 地價と時價との別を悟らしむべし。 2 改正されたるものにつき適當の注意を與ふべし。
一〇	1. 所得税の意義及び其の税率 2. 所得税に關する問題 種々の税金の問題	(6)	1 收入印紙の用途郵便切手との區別を知らしむべし。
一一	1. 酒造税 2. 登録税 3. 營業税 利息の問題		
一二	1. 利息、利率、元金、期間、年利、月利、日歩等の意義		1 公式は歩合に於ける場合と比較して授くべし。

	2. 利息を求むる問題 3. 利率を求むる問題 4. 之金を求むる問題 5. 期間を求むる問題 6. 郵便貯金の利子計算法		
一三	公債及株式の問題		
	1. 公債及公債證書の意義 2. 公債の種類 3. 公債に關する問題練習	(6)	1 公債、株券の實物、若しくは標本等を準備すべし。
一四	4. 株式會社、株券の意義 5. 株主、配當金、利廻等の語義 6. 株式に關する問題		
一五	雜問	(8)	
一六	1. 第二學期に授けたる種々の應用問題解方練習		

第三學期

一	整數及小數	(8)	
	1. 整數小數の加法 2. 整數小數の乘法 3. 四則應用問題		

三　諸等數　(12)

1. 加法及減法
2. 乘法及除法
3. 應用問題
4. 哩、鎖、碼等の長さに關する問題
5. 噸、封度、オンス等に關する問題
6. 角度

六　求積の問題　(4)

1. 面積に關する問題
2. 体積に關する問題

七　分數　(6)

1. 加減
2. 乘除
3. 小數分數の換算
4. 應用問題

八　比の問題　(4)

1. 正比例
2. 反比例
3. 按分比例

九　歩合の問題　(6)

1. 歩合の問題
2. 種々の稅金の問題
3. 利息の問題
4. 公債の問題

1 角度は新教材なり、其の大小につきて明確なる觀念を得しむべし。

1 寒暖計につき知らしむべし。
2 寒暖計を準備すべし。

裁縫科教授細目

尋常科第三學年

第一學期　十七週　三十四時　四十四週　八十八時

週	教授事項（豫定時數）	備考
一	○裁縫用具ノ名稱及使用法	
	1. 用具ノ名稱 針、針刺、鋏、尺度、指貫、糸卷、篦、針箱 (1)	一、針ハ子供ノ指ニ適當シタル長サノモノヲ使用セシムベシ。（曲尺九分内外ヲヨシトス） 二、指貫ハ皮製ノモノヲヨシトス 三、針ハ殊ニ注意シ本數ヲ一定シ置カシムベシ。
	2. 各具ノ使用法 各具ニツキ使用法並ニ使用上ノ注意	
	3. 各具整理法 記名法、箱ニ納メ方	
二——六	○運針準備及練習	
	1. 姿勢 (2)	
	2. 針ノ持チ方布ノ持チ方	
	3. 針ノ運ビ方	
	4. 糸ノ取扱ヒ方 糸ノ卷キ方、糸ノ通シ方、糸ノ切リ方、糸ノ始末方 (9)	
	○運針	一、運針用布ヲ用意セシムベシ。地質厚カラザル木綿ノ無地カ縞（但シ縞縞）並巾二尺内外ノモノ 二、糸モ初メニハアマリ太カラザルモノヲヨシトス。

七—八	1. 素縫		一、素縫ニテ十分指ノ練習ヲナスベシ。
	2. 本縫		
	○糸ノ結ビ方		
	1. 留メ結ビ	(4)	一、糸ノ結ビ方ヲ教エツツ本縫ノ練習ヲナスモノトス。以下モ之レニ準ズ。
	2. 駒結ビ		
	3. 機結ビ		
九—一〇	○糸留メ方		
	1. 打チ留	(4)	右ニ同ジ
	2. 返シ留		
	3. 抄ヒ留		
一一	○糸ノ繼ギ方		
	1. 重ネ繼	(2)	一、結ビ繼ハ布ノ爲メ教エヌガヨロシ。
	○合セ縫		
一二—一三	1. 布ノ扱ヒ方		
	2. 縫代ノ定メ方	(3)	
	篦、尺度ノ使用法		
	3. 待チ針ノ打チ方		
	4. 着セノ仕方		
一三—一四	○風呂敷ノ縁縫		
	三ツ折縫	(2)	一、三ツ折縫ハ之教材ニテ初出ナレバ先ヅ運針用布ニテ教授シテ後教材ニカツラシムベシ。
一四—一五	○敷布縁縫		

	三ツ折縫練習		
一五—一六	○腰卷ノ縁縫	(3)	一、縫ハ適宜ノ縫方ニテヨロシ。
	三ツ折縫練習		
一六—一七	○三ツ折縫應用	(3)	
	枕被、窓掛等其他隨意		

第二學期　十六週　三十二時

一—二	○襟紐（心ヲ入レズ）		
	1. 平鞆、雌針雄針（掛ケ針使用法）	(4)	一、鞆ノ掛ケ方ハ初出ナレバ先ヅ運針用布ニ入ルベシ。以テ教授シテ後教材ニ入ルベシ。
	2. 本絎		二、本結モ右ニ同ジ取扱ヲナスベシ。
三—五	○細紐（心ヲ入ルヽ）		
	1. 心ノ入レ方	(6)	一、重ネ袋ギハ初出ナレバ右ニ同ジ取扱ヒヲナスベシ。
	2. 心ノ接ギ方		一、ツキ合セ縫ハ縫ト連絡シテ教授スベシ。
	一、重ネ接ギ		
	二、ツキ合セ接ギ		
六—七	○細紐練習		
八—一〇	○單衣襦袢ノ袖		
	1. 三ツ折絎	(5)	一、三ツ折絎、耳縫ハ初出ナレバ其ノ取扱ヒヲナスベシ。
	2. 耳絎	(4)	一、筒袖又ハ廣袖ヲ可トス。

週	教授事項	(豫定時數)	備考
一〇—一四	○單衣前掛 ○括枕	(8)	
一四—一六	1. 伏縫 2. 糖ノ入レ方 3. 括リ方	(5)	一、兩耳ヲ耳縫トシ裾ヲ三ツ折縫トス。 一、伏縫ハ初出ナレバ其ノ取扱ヒチナスベシ。

第三學期　十一週　三十二時

週	教授事項	(豫定時數)	備考
一—七	○既習事項練習 教材隨意トス ○袷前掛 合セ縫ノ應用練習	(14)	
八—一一		(8)	一、布ノ取扱ヒニ注意

尋常科第四學年　四十四週　八十八時

第一學期　十七週　三十四時

週	教授事項	(豫定時數)	備考
一—八	○車裁襦袢 1. 裁チ方、積リ方	(20)	一、袋縫、折返縫ハ初出ナレバ其ノ取扱ヒチナスベシ。

週	教授事項	(豫定時數)	備考
	2. 實物仕立方 袋縫……脊縫 折返縫……馬乘 縢縫……衿肩明	(14)	
九—一一	○車裁襦袢練習 1. 裁チ方、積リ方復習 2. 實物仕立方		

第二學期　十六週　三十二時

週	教授事項	(豫定時數)	備考
一—九	○本裁襦袢 1. 裁チ方積ノ方 2. 實物仕立方	(18)	
一〇—一六	○本裁襦袢ノ練習 1. 裁チ方積リ方復習 2. 實物仕立方	(14)	

第三學期　十一週　二十二時

週	教授事項	(豫定時數)	備考
一—二	○小切物接ギ方 片返シ接ギ	(4)	一、片返シ接ギ初出

週	教授事項（豫定時數）		備考
三—八	○袷襦袢ノ袖（其ノ他隨意材料）		
九	○一ツ身襦袢ノ裁チ方積リ方	(2)	
	○既習襦袢裁チ方積リ方復習	(2)	
一〇—一一	車裁及本裁	(12)	一、一ツ身襦袢ハ裁チ方積リ方ノミヲ教授スルモノトス。 一、一ツ身、車裁、本裁ノ比較ヲナサシムルモノトス。

尋常科第五學年

第一學期　十七週　三十四時　四十四週　八十八時

週	教授事項（豫定時數）		備考
一—一〇	○單衣仕事着	(20)	
	1. 裁チ方積リ方		
	2. 實物仕立方		
一一—一七	○半幅丸帶	(14)	
	1. 布ノ整理		
	2. 心ノ作リ方		
	3. 心ノ入レ方		
	4. 引返シ方		
	5. 仕上ゲ方		一、古キ衣服ヲ利用スルガヨロシ。 一、仕立方モ簡單ナルガヨロシ。

第二學期　十六週　三十二時

週	教授事項（豫定時數）		備考
一—一一	○四ツ身單衣	(22)	
	1. 裁チ方積リ方		
	2. 實物仕立方		
一二—一六	○四ツ身單衣ノ練習	(10)	
	1. 裁チ方積リ方復習		
	2. 實物仕立方		

第三學期　十一週　二十二時

週	教授事項（豫定時數）		備考
一—一二	○衣服ノ解キ方	(4)	
	1. 仕立替ノ目的		
	2. 解キ方順序方法		
一三	○洗濯	(1)	
	1. 洗濯ノ目的		
	2. 方法		
一三—一五	○衣服ノ繕ヒ方	(4)	
	1. 布ノ繼ギ方		
	刺繼ギ		一、隨意ノ持合セノ着物ニツキテ實地ニ解カシムルコト。 一、仕立方順序及仕立方ヲ研究的ニ實習セシムベシ。 一、洗濯ハ各兒實習ヲ課外ニナサシムベシ。 一、前ニ解キ洗ヒナシタルモノニツキテ實習ヲサシムルモノトス

尋常科第六學年　四十四週　八十八時

第一學期　十七週　三十四時

週	教授事項	豫定時數	備考
	色紙繼ギ 穴繼ギ 2. 布ノ接ギ方 掛接ギ 片返接ギ、割接ハ復習 ○一ツ身、及三ツ身、裁チ方積リ方	(2)	
五—六	一ツ身單衣 三ツ身		
六—一一	○縫方練習 隨意材料	(11)	一、一ツ身、三ツ身、四ツ身ノ比較チナスコト。
一—一三	○本裁女物單衣	(24)	
	1. 裁チ方積リ方(鉤衽) 2. 仕立方		
一三—一七	○本裁女物單衣ノ練習	(10)	一、第二學期ニ續ク

	1. 裁チ方積リ方(棒衽) 2. 仕立方		

第二學期　十六週　三十二時

一—五	○本裁女物單衣ノ續キ	(10)	一、第一學期續キトス
六—一六	○四ツ身袷 1. 裏地裁チ方積リ方 2. 四ツ身單衣裁チ方積リ方復習 3. 宗物仕立方	(22)	一、袂ノ縫方袖口ノ留等特ニ練習ヲ要ス。

第三學期　十一週　二十二時

一—九	○四ツ身袷練習 ○既習衣服ノ復習	(18)	
一〇—一一	1. 裁チ方積リ方 2. 縫方ノ要点	(3)	
一一	○衣服ノ整理保存	(1)	

大正九年七月三十日印刷
大正九年七月三十一日發行　（非賣品）

埼玉縣廳工場課內
埼玉工業組合會
編輯兼發行人　代表者　伊藤豊次
埼玉縣北足立郡浦和町百十番地
印刷者　星野市太郎
埼玉縣北足立郡浦和町三九六六番地
印刷所　星野活版所
埼玉縣北足立郡浦和町三九六六番地

272.5
3

終